

## 自己点検評価シート

4-1	教育内容・方法・成果 (教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)	
	学 部	1~11
	研究科	12~21
4-2	教育内容・方法・成果 (教育課程・教育内容)	
	学 部	22~31
	研究科	32~41
4-3	教育内容・方法・成果 (教育方法)	
	学 部	42~51
	研究科	52~61
4-4	教育内容・方法・成果 (成果)	
	学 部	62~71
	研究科	72~81
8	研究活動	
	学 部	82~86
	研究科	87~91
9	社会連携・社会貢献	
	学 部	92~96
	研究科	97~101

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 人文学部

**大項目（評価の基準）:** 4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	学士課程の教育目標の明示、教育目標と学位授与方針との整合性、修得すべき学修成果の明示
中項目(2)	(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標・学位授与方針との整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示、科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
中項目(3)	(3) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方法と有効性、社会への公表方法
中項目(4)	(4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	

### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	学部の学位授与の方針について、卒業時までに学生に身に付けるべき能力を明らかにする。	ディプロマポリシーが改正されること
中項目(2)	教育課程の編成・実施方針を引き続き明示する	公表の方法
中項目(3)	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針が効果的に周知されている	周知方法が見直されていること
中項目(4)	学位授与の方針及び教育課程の編成・実施方針が定期的に検証されている	定期的な検証の実施とその結果の公表

### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	平成28年11月から学科単位で学位授与方針をさらに明確化すべく作業を開始している(既出3-L-7)。その後、12月中に中間報告、翌2月には最終案が提出される。それを受けて、3月中旬に新しい学部の学位授与方針を示す予定である。	既出3-L-7人文学部教授会議事録
中項目(2)	平成27年度に引き続き、教育課程の編成・実施方針は『学修ガイド』及び本学ウェブサイトを通じて明示している(4-1-L-1)。しかし、他の公表方法に関して検討は行われていない。	4-1-L-1本学ホームページ
中項目(3)	平成27年度に引き続き、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針は、本学ウェブサイトを通じて大学構成員に周知するとともに、社会に公表している(既出4-1-L-1)。しかし、周知方法の見直しにつき、検討は行われていない	既出4-1-L-1本学ホームページ
中項目(4)	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定期的に検証する体制は、まだ整えられていない。	

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 法学部

**大項目（評価の基準）:** 4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	学士課程の教育目標の明示、教育目標と学位授与方針との整合性、修得すべき学習成果の明示
中項目(2)	(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標と学位授与方針との整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示
中項目(3)	(3) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方法と有効性、社会への公表方法
中項目(4)	(4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	

### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	今後とも、継続して明示する	教育目標と学位授与方針の明示
中項目(2)	今後とも、継続して明示する。	教育課程の編成・実施方針を明示
中項目(3)	今後とも、継続して周知または公表する。	周知徹底と公表
中項目(4)	今後とも、継続して検証する。	カリキュラム委員会における定期的な検証

### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	教育目標と学位授与方針の明示は、継続的に行われており平成27年度、平成28年度ともに継続して行っている。	既出1-J3 学修ガイド平成28年度（学科履修規程2条2項及び5条2項）、既出1-J4 福岡大学公式ホームページ、既出1-J5 福岡大学法学部ホームページ、4-1-J1 学修ガイド平成27年度（「福岡大学学則」・「履修の手引」）
中項目(2)	教育課程の編成・実施方針の明示は、継続的に行われており、平成27年度、平成28年度ともに継続して行っている。	既出1-J3 学修ガイド平成28年度（学科履修規程4条別表等・法学部カリキュラムマップ・専門教育履修モデル・関連教育履修モデル）、既出1-J4 福岡大学公式ホームページ、既出1-J5 福岡大学法学部ホームページ、4-1-J1 学修ガイド平成27年度（「福岡大学学則」・「履修の手引」）
中項目(3)	従来より、教員および学生には、学修ガイドにより周知しており、平成27年度も平成28年度も継続して行っている。また福岡大学公式ホームページおよび福岡大学法学部ホームページにより公表している。	既出1-J3 学修ガイド平成28年度（学科履修規程4条別表等・法学部カリキュラムマップ・専門教育履修モデル・関連教育履修モデル）、既出1-J4 福岡大学公式ホームページ、既出1-J5 福岡大学法学部ホームページ、既出1-J7 大学案内2017・大学案内2016、4-1-J1 学修ガイド平成27年度（「福岡大学学則」・「履修の手引」）
中項目(4)	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。	4-1-J2 教授会議事録平成26年9月17日・平成27年9月2日、4-1-J3 教授会資料平成28年2月19日・平成28年3月11日

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 経済学部

### 大項目（評価の基準）： 4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	①学士課程の教育目標の明示 ②教育目標と学位授与方針との整合性 ③修得すべき学習成果の明示
中項目(2)	(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	①教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 ②科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
中項目(3)	(3) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	①周知方法と有効性 ②社会への公表方法
中項目(4)	(4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	①定期的な検証

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	今後も学修ガイドやウェブサイトにおいて学位授与方針を明示する。	公表されたディプロマポリシー。
中項目(2)	今後もカリキュラム表、学部の紹介の中で教育課程の編成・実施方針を明示する。	学修ガイド、大学案内などの冊子、ウェブサイト等における記述。
中項目(3)	今後もカリキュラム表、学部の紹介の中で教育課程の編成・実施方針を公表する。	学修ガイド、大学案内などの冊子、ウェブサイト等における記述。
中項目(4)	平成30（2018）年までに1度、教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施の適切性について確認する。	教授会議事録。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	学修ガイドやウェブサイトにおいて学位授与方針を明示している（1-E2 24頁、126頁）。	既出 1-E2 平成28（2016）年度経済学部学修ガイド 4-1-E1 福岡大学公式ウェブサイト ディプロマポリシー
中項目(2)	カリキュラム表、学部紹介の種々のガイド・案内の中で、教育課程の編成・実施方針を明示している（1-E2 134-165頁）、（4-1-E2 52-57頁）。	既出 1-E2 平成28（2016）年度経済学部学修ガイド 4-1-E2 福岡大学 大学案内2017 既出4-1-E1 福岡大学公式ウェブサイト カリキュラムポリシー
中項目(3)	カリキュラム表、学部紹介の種々のガイド・案内の中で、教育課程の編成・実施方針を公表している（1-E2 134-165頁）、（4-1-E2 52-57頁）。	既出 1-E2 平成28（2016）年度経済学部学修ガイド 既出 4-1-E2 福岡大学 大学案内2017 既出4-1-E1 福岡大学公式ウェブサイト カリキュラムポリシー
中項目(4)	昨年度に学部の理念・目的の改正を行ったので、その理念・目的に則した学位授与方針の見直しを開始したところである（1-E5 30-31）。	既出 1-E1 福岡大学学則 既出 1-E4 平成28年10月14日経済学部教育推進委員会会議事録 既出 1-E5 ポリシーの見直し等に関するガイドライン

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 商学部

**大項目（評価の基準）:** 4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示、教育目標と学位授与方針との整合性、修得すべき学修成果の明示
中項目(2)	(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示、科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
中項目(3)	(3) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方法と有効性、社会への公表方法
中項目(4)	(4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。

### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	商学部および商学部第二部の学位授与方針が教育目標に基づいたものであるか否かを再検討する。	商学部および商学部第二部の学位授与方針の再検討の実施
中項目(2)	商学部および商学部第二部の教育課程の編成・実施方針が教育目標に基づき明示されているか否かを再検討する。	商学部および商学部第二部における教育課程の編成・実施方針の再検討の実施
中項目(3)	商学部および商学部第二部における教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員に周知され、社会に公表されているか否かを再検討する。	商学部および商学部第二部における教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の、大学内外への周知に関する再検討の実施
中項目(4)	商学部および商学部第二部の教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性についての検証を、それ自体として定期的に実施する。	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性についての検証の定期的実施

### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	商学部および商学部第二部の学位授与方針は、商学部および商学部第二部のディプロマ・ポリシーとして商学科・経営学科・貿易学科・商学部第二部商学科のディプロマ・ポリシーとして、福岡大学公式Webサイト上で公開されている。  現在、文科省令改正にともなうディプロマ・ポリシーの見直しをすすめており、文科省の方針に則して見直されたディプロマ・ポリシーが掲載されることになる。	4-C1 商学部教授会資料(平成28年9月28日) 4-C2 教務部「ポリシー見直し等に関する説明会」配付資料(平成28年11月8日)
中項目(2)	商学部および商学部第二部の教育課程の編成・実施方針は、商学部および商学部第二部のカリキュラム・ポリシーと商学科・経営学科・貿易学科・商学部第二部商学科のカリキュラム・ポリシーとして、福岡大学公式Webサイト上で公開されている。 商学科・経営学科・貿易学科および商学部第二部商学科では、文科省令改正にともなう新たなカリキュラム・ポリシー作成の方針に則した科目編成・実施方針の検討をはじめており、一部の科目については来年度(H29)より実施する予定である。	4-C3 商学部教授会資料(平成28年7月13日) 既出 4-C1 商学部教授会議事録(平成28年9月28日)
中項目(3)	商学部および商学部第二部における教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の大学内外への周知の手段と方法に関しても、文科省令改正にともなう方針に則した手段と方法について検討する必要性の認識は共有されつつある。	既出4-C1 商学部教授会資料(平成28年9月28日)
中項目(4)	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性についての検証は、カリキュラムの改正の際に部分的に行われてきた。平成28年において商学部は専門・関連科目のうち2科目4単位を廃止し、商学部第二部は来年度(平成29年度)において専門・関連科目のうち105単位を廃止して202単位までカリキュラムのスリム化することを決定している。 教育課程の編成・実施方針の定期的な見直しについては、本学教務部による「自己点検・評価との(ポリシーとの)関連付けと学外に向けたシステムの可視化」で表明されている組織体制の検討結果を受けて、対応することになる。	既出4-C1商学部教授会資料(平成28年9月28日) 4-C4 商学部教授会資料(平成28年10月12日)  既出4-C2 教務部「ポリシー見直し等に関する説明会」配付資料(平成28年11月28日)

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 理学部

**大項目（評価の基準）:** 4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	学士課程の教育目標の明示、修得すべき学修成果の明示。
中項目(2)	(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示、科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示。
中項目(3)	(3) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方法と有効性、社会への公表方法。
中項目(4)	(4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	

### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	地球圏科学科では、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）とディプロマ・ポリシーを大学案内、学部ガイド、学修ガイド等に明記すること。	大学案内、学部ガイド、学修ガイドへの掲載
中項目(2)	教育課程の編成・実施方針・必修・選択・単位数について、教務連絡会議において検証する。	教務連絡会議における議事録を検証する。
中項目(3)	教育目標・三つのポリシーを大学案内、学部ガイド、学修ガイド、年報、ホームページにより周知し、社会へ公表する。	学科主任会、教授会における議事録を検証する。
中項目(4)	教育目標、三つのポリシー（「アドミッション・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」「ディプロマ・ポリシー」）を各学科会議、主任会、教授会で定期的に検証する。	毎年の自己点検・評価報告書の作成

### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	すべての学科について、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）とディプロマ・ポリシーが大学案内、平成28年度学修ガイド（理学部）、ホームページに明記している。(4-1-S1、4-1-S2、既出3-S4)	4-1-S1 大学案内2017 4-1-S2 平成28年度学修ガイド（理学部） 既出3-S4 理学部ホームページ
中項目(2)	物理科学科・化学科では、平成27年度以降の入学者に対して、年間修得単位数の上限を48単位へと削減した。地球圏科学科では、平成27年度以降の入学者に対して、年間修得単位数の上限を49単位に削減した。(4-1-S3)	4-1-S3 理学部教授会議事録（平成26年9月30日）
中項目(3)	全ての学科で三つのポリシーが、理学部・理学研究科年報、ホームページに掲載されている。(既出3-S3、既出3-S4)	既出3-S3 理学部・理学研究科年報2015 既出3-S4 理学部ホームページ
中項目(4)	全ての学科で、教育目標・三つのポリシーを検証し、講義内容の検討及び学生指導の改善について議論を行った。(4-1-S4)	4-1-S4 平成27年度自己点検・評価シート

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 工学部

### 大項目 (評価の基準) 4-1. 教育内容・方法・成果 (教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針)

#### I. 中項目 (点検・評価項目) ・評価の視点

中項目 (1)	(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	理念・目的を踏まえ、学部・研究科ごとに、課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件 (卒業要件・修了要件) 等を明確にした学位授与方針を設定しているか。学位授与方針と教育課程の編成・実施方針は連関しているか。
中項目 (2)	(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法などに関する基本的な考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を、学部・研究科ごとに設定しているか。教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。
中項目 (3)	(3) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員 (教職員および学生等) に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表しているか。
中項目 (4)	(4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	

#### II. 到達目標・指標 (平成30年度までの到達目標及び指標) (Plan : 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目 (1)	学位授与方針の明示を継続する。	平成30年度までのディプロマシーポリシー。
中項目 (2)	教育課程の編成・実施方針の明示を継続する。	平成30年度までのカリキュラムポリシー。
中項目 (3)	学位授与方針・教育課程の編成・実施方針を継続的に公表する。	平成30年度までの公表記載。
中項目 (4)	学位授与方針・教育課程の編成・実施方針を継続的に点検・改善を行う。	議事録。

#### III. 到達目標の進捗状況 (Do : 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目 (1)	学位授与方針を引続き明示している。	4-1-T1学修ガイド[工学部] 4-1-T2シラバス[工学部] 4-1-T3学則第31条から34条 4-1-T4各学科ホームページ 4-1-T5工学部・工学研究科資料集
中項目 (2)	教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー) を引続き明示している。	4-1-T1学修ガイド[工学部] 4-1-T2シラバス[工学部] 4-1-T6学部ホームページ
中項目 (3)	学位授与方針・教育課程の編成・実施方針を引続き社会に公表している。	4-1-T1学修ガイド[工学部] 4-1-T2シラバス[工学部] 4-1-T4各学科ホームページ
中項目 (4)	学位授与方針・教育課程の編成・実施方針について工学部教育点検・改善委員会の規程に基づいて確認を行っている。	既出1-T3「福岡大学工学部教育点検・改善委員会規程 (平成25年4月10日制定)」

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 医学部医学科

### 大項目（評価の基準）： 4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標に基づき学位授与方針を明示している。
中項目(2)	(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示している。
中項目(3)	(3) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されている。
中項目(4)	(4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っている。

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	学位授与方式は継続的に明示していく。	定期的検証の実施
中項目(2)	基礎医学から臨床医学への移行を円滑に行う。臨床教育においては、病棟修練を国際基準に合わせる。看護学科においても同様である。	定期的検証の実施、国際認証への分野別評価基準にもとずいた自己点検を行う。
中項目(3)	医学教育ワークショップ（年4回開催）の充実から教育方針に関する学内理解の向上を目標にする。	教育課程に関しては、学部ガイド CONTENTSやホームページ上に掲載し、大学構成員だけでなく外部からの閲覧も可能にする。
中項目(4)	外部委員、第三者委員の活用を目標にする。	毎回のFD推進・教務委員会、教授会で確認し、卒業評価判定に関しても検証する。また、父兄会、父兄後援会等を通して、学生の父母と交信する。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	医学部1-6年にわたる成績、授業、実習態度等を総合的に判断して、卒業要件を満たせば、卒業認定し、医学士となる。医学部6年生においては医学部医学科卒業においては、クリニカルクラークシップ、領域別集中講義（各科試験）、総合試験、アドバンストOSCEを総合的に勘案し、卒業判定を行っている。最終判定はFD推進・教務委員会、医学部医学科教授会議で最終の判定を行う。成績不良者等には、各学年を通じて、医学部長、教務委員、学年担任等より、個別指導を行っている。良医の育成並びに医師国家試験における合格率の向上を念頭に置いた指導を行っている	
中項目(2)	良医育成のために、教育目標に基づき、段階的な教育課程の編成・実施方針を明示している。本学は全人教育が総合大学としてのモットーであるため、1学年に関しては、共通教育センターでの指導の下に、医学に特化しない全体的教育が行われている。1学年においても、医学概論や基礎医学の講義が開始され、第2学年において、本格的な基礎医学の修得カリキュラムに移行する。第3、4学年では、各科の臨床系統講義が開始され、第4学年時のCBT、OSCEの合格をもって、第5学年以降の病棟における臨床実習が開始される。	
中項目(3)	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されている。内容は、シラバスにも明記されている。学内的には、教務委員会や教授会での公知、承認を経て、医学部内への周知を行っている。また、医学教育ワークショップ（年4回開催）では、医学部教育の国際認証、教育ユニットの開設、クリニカルクラークシップ等のテーマを提示し、教育方針に関する学内理解の向上に努めている。また父兄には、年数回の父母懇談会等を通じて、教育課程の編成・実施方針等を周知している。	
中項目(4)	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っている。医学科では「医学教育ワークショップ」、カリキュラム検討委員会、FD推進・教務委員会、全国共用試験（CBT）に向けた医学教育、医師国家試験対策、PBLテュートリアル改善、学生班別会議、および全体会議を通して教職員で行っている。さらに種々の学外ワークショップへの参加、臨床教育指導者養成コースへの参加は毎年病院を中心に行われている。教育の編成・実施の方針の適切性は、毎回のFD推進・教務委員会、および医学科教授会で確認し、卒業評価判定に関しても検証をしている。また、父兄会、父兄後援会等を通して、学生の父母にも連絡している。	

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 医学部看護学科

### 大項目（評価の基準）： 4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標に基づき学位授与方針を明示している。
中項目(2)	(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示している。
中項目(3)	(3) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されている。
中項目(4)	(4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っている。

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	学位授与方式は継続的に明示していく。 看護学科では、これから提示される看護学教育モデル・コア・カリキュラムをもとに、ディプロマポリシーを見直し、明示する。	定期的検証の実施 看護学科では、具体的な人材養成像、ディプロマポリシー、教育目標と看護学教育モデル・コア・カリキュラム適切性、整合性を点検する。
中項目(2)	基礎医学から臨床医学への移行を円滑に行う。臨床教育においては、病棟修練を国際基準に合わせる。 看護学科では、これから提示される看護学教育モデル・コア・カリキュラムをもとに、ディプロマポリシー、教育目標を見直し、教育課程の編成・実施方針を修正し、明示する。	定期的検証の実施、国際認証への分野別評価基準にもとずいた自己点検を行う。 看護学科では、新たなコア・カリキュラムとディプロマポリシー、教育目標の体系的、整合性を確認するためにカリキュラムマップ・ツリーの策定を通して点検する。
中項目(3)	医学教育ワークショップ（年4回開催）の充実から教育方針に関する学内理解の向上を目標にする。 看護学科では、看護学教育モデル・コア・カリキュラムについて情報共有し、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーとの体系的、整合性、適切性を確認し、教授会で承認を得て公表する。	教育課程に関しては、学部ガイド CONTENTSやホームページ上に掲載し、大学構成員だけでなく外部からの閲覧も可能にする。 看護学科では、大学構成員に対し、教職員については会議体で説明し、その後、学生に対しては学年進行に伴って学修ガイドを用いて説明し、大学案内、学科のホームページに掲載し、公表する。
中項目(4)	外部委員、第三者委員の活用を目標にする。 看護学科では、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について卒業時の到達目標の調査を継続実施し、卒業生の社会的評価が可能な到達目標を看護学教育モデル・コア・カリキュラムから作成・調査し、定期的に検証を行う。	毎回のFD推進・教務委員会、教授会で確認し、卒業評価判定に関しても検証する。また、父兄会、父兄後援会等を通して、学生の父母と交信する。 看護学科では、4年次生の到達目標達成度と卒業生の到達目標達成度の主観的評価と客観的評価から検証する。

### Ⅲ.到達目標の進捗状況(Do:実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	看護学科の学位授与方針は継続して学科のホームページに明示されている。評価判定基準は本学科の教育理念、教育目標に基づく教育課程を履修し、総計125単位以上を修得である。評価の判定については教務委員会、教授会にて審議し、学年進行に合わせて進級評価、卒業判定を行っている。また、本学の重点ビジョンに基づく平成28年度事業計画達成のための取り組みの検討では、看護学科FD委員会と教授会議において、教育理念に基づく教育目標、教育課程及び教育方法などの方針を検証している。	既出1-MN1 2016大学案内 4-MN1 看護学科教授会資料【平成27年度卒業判定に関する説明】資料 既出1-MN2 平成28年度看護学修ガイド 既出4-MN2 平成28年度事業計画達成のための取り組み
中項目(2)	看護学科では、学位授与方針に従って教育において修得すべき知識及び能力の修得について、大学案内、大学学則、看護学科学修ガイド、看護学科ホームページに明示している。年度初めに教務委員会にて各学年に対し学修ガイドを行っている。本学科の教育課程は高等学校教育から大学教育へ円滑に移行するための初年次教育にはじまり、幅広い教養を備え、心豊かな人間性を養うための共通教育科目と、専門的知識の修得と看護実践能力の育成のための専門基礎及び専門教育科目で編成されている。看護の対象である人間理解では共通教育科目と専門基礎科目の知識を活用し、専門教育科目では看護の理論と方法論を学習し、看護の目的を達成するための看護技術や、健康問題を解決するための看護技術を修得している。また、実習科目では、患者を受け持ち、学内での学習をもとに、観察力、コミュニケーション能力、科学的問題解決能力、論理的思考及び臨床判断力、看護を創造する力、倫理的感性、看護専門職としての姿勢を培い、高い能力を有する人材育成を目指している。高い実践能力を育成するための教育の工夫として、成人看護学ではシミュレーション教育を導入し、学生主体の学習活動を通して、科学的・倫理的判断に基づく、看護実践能力を養い、教育目標到達に向けて成果がみられている。他の看護領域においても、模擬患者による技術演習を企画するなど工夫がなされている。	既出1-MN1 2016大学案内 既出1-MN 平成27年度看護学科学習ガイド 既出4-MN2 平成28年度事業計画達成のための取り組み
中項目(3)	看護学科では、教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針について教職員や学生への周知は当然であるが、臨床スタッフ・指導者にも実習指導者連絡会議において臨時説明を行い周知を図っている。また、大学、学部、学科ホームページにて教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針については公表されている。	既出1-MN5 平成28年度基礎看護学実習要項、平成28年度後期・平成29年度前期 臨地実習要項(共通編) 既出1-看護学科ホームページ資料
中項目(4)	看護学科では、教育目標、学位授与方針及び教育課程編成・実施方針の適切性を検討するために卒業時の到達目標の調査を断続的に実施し、その結果をFD委員会で分析し、教授会で共有している。卒業生の社会的評価については、実習施設に就職した卒業生に関しては、情報を得ることが可能であるが、実習施設、卒業生の就職先の施設と連携し、年度毎に客観的評価が必要である。現在、その方法について検討中である。	既出3-MN2 看護学科FD活動報告書

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 薬学部

大項目（評価の基準）： 4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	学士課程教育の教育目標の明示
中項目(2)	(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示
中項目(3)	(3) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	教育目標や学位授与方針などの大学構成員への周知方法と有効性。社会への公表方法
中項目(4)	(4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	

### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	明示したディプロマ・ポリシーを検証する。改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに沿った薬学部卒業時に必要とされる資質の修得を教育目標へ反映させる。	ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、学修ガイド、改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム（H25年度改訂版）
中項目(2)	明示したカリキュラム・ポリシーを検証する。改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに沿った教育課程を再編成する。	学修ガイド、改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム（H25年度改訂版）
中項目(3)	教育目標、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを薬学部ホームページで公表する。	薬学ホームページ
中項目(4)	カリキュラム検討委員会で定期的カリキュラムを検証する。	学修ガイド、教授会資料

### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに沿った薬学部卒業時に必要とされる10の資質と授業科目との相関を明確化した。また、改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに沿うようにディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を改正した。	既出3-P4 三つのポリシー（ディプロマ・ポリシー） 既出1-P2 学修ガイド(改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム) (H25年度改訂版)
中項目(2)	改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに沿った授業科目になるようカリキュラム・ポリシーを改正し、教育課程を再編成した。	既出3-P4 三つのポリシー（カリキュラム・ポリシー） 既出1-P2 平成28年度学修ガイド
中項目(3)	薬学部の教育研究の理念と目的、三つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）を薬学部ホームページに公表した。	既出3-P4 三つのポリシー
中項目(4)	教務委員を中心にカリキュラム検討委員会を設置し、適正なカリキュラムの立案・作成を行い、教授会での審議後、運用する体制を強化した。	4-1-P1 平成27年度第9回正教授会資料 4-1-P2 カリキュラム検討委員会資料

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## スポーツ科学部

大項目（評価の基準）： 4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学士課程の教育目標の明示</li> <li>・ 教育目標と学位授与方針の整合性</li> <li>・ 修得すべき学習成果の明示</li> </ul>
中項目(2)	(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示</li> <li>・ 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示</li> </ul>
中項目(3)	(3) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 周知方法と有効性</li> <li>・ 社会への公表方法</li> </ul>
中項目(4)	(4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	

### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	・ 学士課程の教育目標の明示、基づいた学位授与方針が明示されているだけでなく、教職員、学生が十分に理解している	・ 学修ガイドへの掲載とガイダンス等の回数
中項目(2)	・ 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているだけでなく、教職員、学生が十分に理解している。	・ 学修ガイドへの掲載とガイダンス等の回数
中項目(3)	・ 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されている。	・ 学修ガイド、大学案内、ホームページにおいて公表
中項目(4)	・ 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について、定期的に検証を行っている。	・ 学部カリキュラム委員会において適切性について検証し、教授会で検討を行う回数

### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	・ 学士課程の教育目標の明示、基づいた学位授与方針については、スポーツ科学部学修ガイドに掲載している（1-G1 3頁）。本年度より、スポーツ科学部の年報を作成するとともに、教職員に配布して理解を深めている（1-G3 3～5頁）。学生に関して、新入生には、入学時にガイダンスで、学修ガイドを用いて説明している（1-G3 7頁）。その後、1年次生、2年次生においては、2回のガイダンスを行っているため、理解は高まっている。	既出1-G1「平成28年度学修ガイド スポーツ科学部」 既出1-G3「平成27年度スポーツ科学部年報（創刊号）」 4-1-G1「平成27年度教授会議事録（1月6日）」資料38
中項目(2)	・ 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針については、スポーツ科学部学修ガイドに明記されており、教職員に配布されているので理解している（1-G1 3頁）。また、科目区分、必修・選択の別、単位数等も学修ガイドに明示している（1-G1 72～81頁）。学生に関して、新入生は入学時にガイダンスで、学修ガイドを用いて説明している（1-G3 7頁）。その後、1年次生、2年次生において、2回のガイダンスを行っているため、理解は高まっている。	既出1-G1「平成28年度学修ガイド スポーツ科学部」 既出1-G3「平成27年度スポーツ科学部年報（創刊号）」 既出4-1-G1「平成27年度教授会議事録（1月6日）」資料38
中項目(3)	・ 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針については、スポーツ科学部学修ガイドに明記され、教職員および学生に配布しているため周知している（1-G1 3頁）。本年度より、スポーツ科学部の年報を作成し、教職員に配布して周知を行っている（1-G3 3～5頁）。学生に関して、新入生には、入学時にガイダンスで、学修ガイドを用いて説明し、その後、1年次生、2年次生において、2回のガイダンスを行ない周知をしている（1-G3 7頁）。その他、大学案内、学部紹介、福岡大学ホームページ及びスポーツ科学ホームページによって、広く社会に公表している（1-G4 106～111頁、）。	既出1-G1「平成28年度学修ガイド スポーツ科学部」 既出1-G3「平成27年度スポーツ科学部年報（創刊号）」 既出4-1-G1「平成27年度教授会議事録（1月6日）」資料38 既出1-G4「2017大学案内」 4-1-G2「2017年度スポーツ科学部ガイド」 既出1-G5「スポーツ科学部ホームページ」 4-1-G3「福岡大学ホームページ スポーツ科学部」
中項目(4)	・ 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について、本年度はスポーツ科学部のディプロマポリシーの見直しを行っている。来年度以降もディプロマポリシーの見直しを受けて、カリキュラムマップの作成に向けて、定期的にスポーツ科学部のカリキュラム委員会を開催する予定である。	4-1-G4「平成28年度教授会議事録（10月19日）」資料3 4-1-G5「ポリシー見直し等に関するガイドライン」

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 人文科学研究科

大項目（評価の基準）： 4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示、教育目標と学位授与方針との整合性、修得すべき学習成果の明示
中項目(2)	(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標・学位授与方針との整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示、科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
中項目(3)	(3) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方法と有効性、社会への公表方法
中項目(4)	(4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	

### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	現状を維持する。	年度毎の学位授与率
中項目(2)	現状を維持する。	年度毎のシラバスにおける開講科目情報
中項目(3)	現状を維持する。	年度毎の「大学院便覧」「大学院入学試験要項」における記載内容
中項目(4)	各専攻、研究科としてのポリシー(アドミッション、カリキュラム、ディプロマ)の具体化とカリキュラムの見直し	研究科自己点検・評価委員会(平成28年度設置予定)による点検・評価内容

### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	各専攻とも、大学院学則に定める人材養成目的、その他教育研究上の目的、大学院学位規程に沿って、修士及び博士の学位を授与している。	4-1-LD1福岡大学大学院学則 4-1-LD2 福岡大学大学院学位規程
中項目(2)	教育課程の編成は、カリキュラムポリシーに沿った専門科目(領域)から構成され、その実施にあたってはディプロマポリシーに基づいている。博士課程前期・修士課程では、「特殊講義」・「演習」で編成された科目群から学生の専修(コース)毎に定められた必修・選択条件に即して32単位以上の修得と学位論文合格をもって修了、博士課程後期では、「特別研究」科目12単位以上の修得及び学位論文合格をもって課程修了としている。	既出1-LD4 平成28年度大学院便覧
中項目(3)	教員及び学生に対しては、大学院便覧、大学院入試要項を配布して、周知を図っている。また、これらの情報は本学大学院ホームページを通じて社会に公表している。	既出1-LD4 平成28年度大学院便覧 既出1-LD2 平成29年度大学院入学試験要項人文科学研究科 4-1-LD3本学大学院ホームページ
中項目(4)	教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針に関しては、専攻毎に検証を行い、その結果を通常委員会で検討しているが、それらに対する定期的な検証は行っていない。	4-1-LD4人文科学研究科通常委員会議事録(平成28年2月22日、5月18日、11月30日)

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 法学研究科

大項目（評価の基準）： 4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	修士課程・博士課程の教育目標の明示、教育目標と学位授与方針との整合性、修得すべき学修成果の明示
中項目(2)	(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標と学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示
中項目(3)	(3) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方法と有効性、社会への公表方法
中項目(4)	(4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	

### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	現状を維持する。	大学院便覧などの各種媒体でのディプロマ・ポリシーの明示。
中項目(2)	現状を維持する。	大学院便覧などの各種媒体でのカリキュラム・ポリシーの明示。
中項目(3)	現状を維持する。	大学院便覧などの各種媒体での教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの公表。
中項目(4)	教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの適切性の定期的検証を通常委員会の中に設置される予定の小委員会の任務として検証作業をする。	左記小委員会による検証結果の公表。
中項目(5)		

### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	ディプロマ・ポリシーは、大学院便覧において明示している。	4-1-JD-1平成27年度版大学院便覧巻頭「3つのポリシー」；4-1-JD-2平成28年度版大学院便覧巻頭「3つのポリシー」
中項目(2)	カリキュラム・ポリシーは、大学院便覧において明示している。	既出4-1-JD-1；4-1-JD-2
中項目(3)	カリキュラム・ポリシーは、大学院便覧において明示している。	既出4-1-JD-1；4-1-JD-2
中項目(4)	教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの適切性の定期的検証については、将来構想委員会で検証作業をしている。	4-1-JD-3将来構想委員会第7回（2016.8.31）資料④10頁

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 経済学研究科

大項目（評価の基準）： 4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示、教育目標と学位授与方針との整合性、修得すべき学修成果の明示
中項目(2)	教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示、科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
中項目(3)	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方針と有効性、社会への公表方針
中項目(4)	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	

### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	教育目標に基づきより明確な学位授与基準を作る。	大学院便覧
中項目(2)	教育課程の編成・実施方針とその目標をより明確にする。	大学院便覧
中項目(3)	教育目標、学位授与方針の社会への公表に積極的に努める。	大学院便覧
中項目(4)	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について、通常委員会、後期小委員会などを中心に定期的な検証を行っていく。	通常委員会議事録
中項目(5)		

### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	教育目標について、3つのポリシーの改正を行い、さらには、学位授与に関する内規をより明確なものにしている。	既出1-ED3、通常委員会議事録（2月22日）、4-1-ED1、後期小委員会議事録（7月15日）
中項目(2)	教育課程の編成、実施方針、科目区分は、大学院便覧や大学院ウェブサイトなどで明示している。	既出1-ED1、福岡大学大学院便覧、既出1-ED2、福岡大学大学院ウェブサイト
中項目(3)	教育目標や実施方針については、大学院便覧、入学試験要項、大学院ウェブサイトなどを通じて、教職員や社会に公表している。	既出1-ED1、福岡大学大学院便覧、既出1-ED2、福岡大学大学院ウェブサイト、4-1-ED2、大学院入学試験要項
中項目(4)	カリキュラムや学位授与に関する実施方針の適切性について、FD委員会や後期小委員会を中心となって、検証を行っている。	既出3-ED2、FD委員会開催通知、既出4-1-ED1、後期小委員会議事録（7月15日）

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 商学研究科

**大項目（評価の基準）:** 4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標に基づく博士課程前期および博士課程後期における学位授与方針の明確化
中項目(2)	(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標に基づく教育課程の編成・実施方針の明示化
中項目(3)	(3) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	学位授与方針と教育課程の編成・実施方針の明示化および学内および社会への公表方法
中項目(4)	(4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	

### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）のよりいっそうの明確化	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）
中項目(2)	教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を点検し、より現状に合うものにする。	教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）
中項目(3)	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）を学内外によりいっそう公表・周知する。	学位授与方針（ディプロマポリシー）、教育課程の編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）の公表・周知度
中項目(4)	ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーの適切性について、通常委員会で検証していくこと。	ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーの定期的検証

### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）をより一層明確化すべく、通常委員会で審議している。	既出 1-CD1 2015年12月通常委員会資料、既出 1-CD2 2016年2月通常委員会資料、既出 1-CD3 2016年6月通常委員会資料、既出 1-CD4 2016年9月通常委員会資料。
中項目(2)	教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を点検し、さらに現状に合うものとするべく、通常委員会で審議している。	既出 1-CD1 2015年12月通常委員会資料、既出 1-CD2 2016年2月通常委員会資料、既出 1-CD5 2016年10月通常委員会資料。
中項目(3)	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を学内外により一層公表・周知すべく、通常委員会で審議している。	既出 1-CD6 大学院便覧、既出 1-CD7 入学試験要項、4-1-CD1 『福岡大学大学院ガイド』。
中項目(4)	ディプロマ・ポリシー、カリキュラムポリシーは商学研究科にとって適切であるかどうか、通常委員会で検証している。	既出 1-CD1 2015年12月通常委員会資料、既出 1-CD2 2016年2月通常委員会資料、既出 1-CD3 2016年6月通常委員会資料、既出 1-CD4 2016年9月通常委員会資料、既出 1-CD5 2016年10月通常委員会資料。

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 理学研究科

### 大項目（評価の基準）： 4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	修士課程・博士課程の教育目標の明示、教育目標と学位授与方針との整合性、修得すべき学習成果の明示
中項目(2)	(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示、科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
中項目(3)	(3) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方法と有効性、社会への公表方法
中項目(4)	(4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	教育目標や修得すべき学習成果の明示を、引続き継続していく。	明示されている媒体の有無
中項目(2)	引続き、教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成を行い、これらを大学院便覧等で明示していく。	明示されている媒体の有無
中項目(3)	教育目標、学位授与方針等を、引続き各種媒体に掲載し、周知・公表に努める。	掲載・公表されている媒体の数
中項目(4)	教育目標・学位授与方針等の適切性について、引続き検証していく。	当該検証に係る会議等の回数

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	理学研究科としての教育目標および各専攻の教育目標は、平成28年度大学院便覧に博士課程前期と博士課程後期のそれぞれについて、個別に明示されている（既出1-SD1）。また、同じく大学院便覧に、博士課程前期と博士課程後期のそれぞれについての学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明示されている（既出1-SD1）。さらに学位授与基準、審査方法および審査基準が学位規程および学位取扱細則（既出1-SD1 233頁～、250頁、265頁～）で、博士課程前期と後期それぞれに定められている。これらの内容は、教育目標の各項の内容と対応したものとなっており、整合性が取れている。これらによって、修得すべき学修成果が分かるように明示されている。	既出1-SD1 平成28年度大学院便覧
中項目(2)	教育目標や学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施の方針がカリキュラム・ポリシーとして、大学院便覧に明示されている（既出1-SD1）。また、必要に応じて、カリキュラムの改定も行っている。さらに、大学院便覧に、科目区分や必修と選択の別、修得すべき単位数などが詳細に明示されている（既出1-SD1 95頁～114頁）。	既出1-SD1 平成28年度大学院便覧
中項目(3)	教育目標等を明示した大学院便覧（既出1-SD1）は、年度初めにすべての大学院生および教職員に配布され、ガイダンス等でも参照するものであるため、周知は徹底しており、有効である。また、この内容は本学の公式ホームページにも掲載されており、社会への公表もなされている（既出1-SD2）。	既出1-SD1 平成28年度大学院便覧 既出1-SD2 福岡大学公式ホームページ（教育研究上の目的/大学院）
中項目(4)	学位授与関連規程、教育課程編成等については、実績としては1～2年に1度程度、一部改訂等を行っている。平成24年度には博士学位申請取扱細則を一部訂正し、平成25年4月入学生からは、博士課程後期の単位化に伴う学則の改訂を行い、平成26年2月18日の理学研究科通常委員会において、カリキュラムポリシーについて一部改訂を行った（既出1-SD1、既出1-SD3）。さらに、平成27年度第10回理学研究科通常委員会において、博士学位取得のためのガイドラインおよびディプロマ・ポリシーの一部改正を行い、平成28年度入学生から適用している。（4-1-SD1）	既出1-SD1 平成28年度大学院便覧 既出1-SD3 理学研究科通常委員会 議事録（平成26年2月18日） 4-1-SD1 平成27年度第10回理学研究科通常委員会議事録・資料（平成28年1月26日）

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 工学研究科

**大項目（評価の基準）:** 4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

### I. 中項目(点検・評価項目)・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標と学位授与方針との整合性
中項目(2)	(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示
中項目(3)	(3) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方法と有効性
中項目(4)	(4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	

### II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	専攻で共通する科目を中心に専攻を越えて、工学研究科全体で教育目標を設定し、検討を行う委員会を組織する。	委員会規程作成し運用する。外部評価委員会での評価を受ける。
中項目(2)	各専攻の教育課程編成及び実施方針を工学研究科全体で検討する委員会を組織し、実施状況をモニタリングする。	委員会規程作成し運用する。外部評価委員会での評価を受ける。
中項目(3)	工学研究科全体で検討した教育目標と実施方針を全教員に毎年報告、教員の意見を聞く。	報告書作成と外部評価委員会での評価結果。
中項目(4)	毎年、教育目標、教育課程編成について検討を行ない、明文化する。	外部評価委員会での評価を受ける。

### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	教育内容検討会議を工学研究科内に組織した。構成員は、研究科長、大学院委員、学務委員、各専攻の主任である。原則的に、年2回開催し、研究科として研究目標等の検討を行っている。	
中項目(2)	教育内容検討会議を工学研究科内に組織した。構成員は、研究科長、大学院委員、学務委員、各専攻の主任である。原則的に、年2回開催し、研究科として研究目標等の検討を行っている。	
中項目(3)	通常委員会の議題として、各専攻のアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを検討し、教員の意見を聞いた後承認をとって全教員への周知を図っている。学生への周知は、印刷物及びホームページで行っている。(4-1-TD1、4-1-TD2)	4-1-TD1 平成28年度大学院便覧、 4-1-TD2 福岡大学大学院HP3つのポリシー ( <a href="http://www.adm.fukuoka-u.ac.jp/fu820/home1/guide/policy.html#eng">http://www.adm.fukuoka-u.ac.jp/fu820/home1/guide/policy.html#eng</a> )
中項目(4)	今年度は12月開催予定の教育内容検討会議で、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの内容を検討、確認し、その後通常委員会で教員へ説明し、意見を聞く予定である。委員会後、学位取得のためのガイドラインとともに、学生に配布して、周知に努める。	

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 医学研究科

大項目（評価の基準）： 4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示、修得すべき学修成果の明示
中項目(2)	(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示
中項目(3)	(3) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方法と有効性、社会への公表方法
中項目(4)	(4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	

### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	組織再編に伴う教育目標等の内容・明示方法の検討	博士・修士課程改革小委員会による検討
中項目(2)	(社会人入学者を含む) 大学院教育の多様化に対応したカリキュラム・授業形態等の見直し	カリキュラム・シラバスの再検討
中項目(3)	HP等による広報活動強化	HPの更新等
中項目(4)	FDによる定期的・全体的な検証	FDの定期開催

### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	博士課程ではこれまで手続き的な記述であったディプロマポリシーの内容を、知識、技能、態度に基づいた明確なアウトカム基盤型の記述に改正準備中である。(既出3-MD1, 2) 修士課程では、従来の論文コースに加えて新たに高度専門看護師(クリティカルケア)コースの平成29年度開設を日本看護系大学協議会に申請した。それに伴い教育課程の再編成を行い、教育目標やポリシーを改訂し、教育内容・方法等に関する基本的な考え方を示した。(既出1-MD3) 現在養護教諭専修免許コースの新設を検討している。	既出 3-MD1 医学研究科博士課程小委員会議事録(平成28年1月13日) 既出 3-MD2 医学研究科博士課程小委員会議事(平成28年10月26日分) 既出 1-MD3 平成28年度第3回医学研究科看護学専攻修士課程小委員会議事録及び添付資料
中項目(2)	博士課程では平成27年度より、コースワーク・リサーチワークの整合性がとれた新カリキュラムを実施している。また、共通教育のカリキュラムの多様化を図る一環として、言語教育研究センターの講師を招聘し、「英語スキルアップゼミ」を開始した。(既出1-MD1 11~12頁) 修士課程では、高度専門看護師(クリティカルケア)コース開設の申請に伴い、論文コースも含め全体のカリキュラムとシラバスを見直した。。また、社会人入学者であっても高度専門看護師のための実習等カリキュラムがスムーズに行われるよう時間割への配慮、授業形態等の見直しを始めている。(既出 1-MD3)	既出 1-MD1 平成28年度大学院医学研究科博士課程シラバス 既出 1-MD3 平成28年度第3回医学研究科看護学専攻修士課程小委員会議事録及び添付資料
中項目(3)	博士課程では財政的な裏付けが得られておらず、HPの更新は依然できていない。 修士課程では、独自のホームページを開設し、理念や目的を公開している。(既出 1-MD6) また理念・目的を含むポスターとパンフレット作成し、毎年近隣の約200の病院に配布している。(既出 1-MD7) また、高度専門看護師コースの開設に向けてホームページ変更を検討している。	既出 1-MD6 福岡大学大学院医学研究科修士課程看護学専攻HP 既出 1-MD7 平成29年度修士課程看護学専攻学生募集用パンフレット及びポスター
中項目(4)	博士課程のFD活動に関しては、臨床研究の倫理関連で啓蒙セミナーを開催した。FD活動の財源としては、予算外申請によって、講師招聘などの費用を拠出することが可能になった。(既出 1-MD5) 修士課程でのFD活動は、今のところ修士課程独自のものは定期的には行われていないが、学部でのFD活動の一環として年3回開催されている講演会が内容的に修士課程にも適用されるものである。(既出 3-MD5) 平成26年度より米国ウオッシュバン大学大学院担当教員が来福し、大学院担当教員による講演会や講義が行われている。(既出 1-MD4)	既出 1-MD5 福岡大学大学院医学研究科FDセミナー資料 既出 3-MD5 医学部看護学科FD活動報告書第3号 既出 1-MD4 看護学科国際交流活動報告書2015

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 薬学研究科

大項目（評価の基準）： 4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	学士課程・修士課程・博士課程の教育目標の明示
中項目(2)	(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
中項目(3)	(3) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方法と有効性 社会への公表方法
中項目(4)	(4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	カリキュラム改定の検討

### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	教育目標及び学位授与方針が冊子、Webともに理解されやすく明示されている。	教育目標等に関する教員、大学院生、学部生の理解度
中項目(2)	教育課程の編成・実施方針を毎年検証し、カリキュラム改訂を検討する。	通常委員会において検証・検討し、議事録に残す。
中項目(3)	研究科構成員全員（教員、学生）がカリキュラムを周知している。	通常委員会において検証・検討し、議事録に残す。新入生ガイダンスにおける詳細な説明。
中項目(4)	カリキュラムが更新されている。	通常委員会において検証し、議事録に残す。

### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	冊子、WEBともに理解されやすく明示されている。	既出1-P2 大学院便覧(平成28年度) 既出1-P3 福岡大学大学院HP 既出1-P4 福岡大学薬学研究科HP
中項目(2)	冊子、WEBともに教育目標に基づいたカリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）を明示している。	既出1-P2 大学院便覧(平成28年度) 既出1-P3 福岡大学大学院HP 既出1-P4 福岡大学薬学研究科HP
中項目(3)	教員については、通常委員会にて確認周知している。学生については、新入生ガイダンスにて周知している。	既出1-P2 大学院便覧(平成28年度) 既出1-P3 福岡大学大学院HP 既出1-P4 福岡大学薬学研究科HP
中項目(4)	講義担当者及び内容について変更が生じた場合は、通常委員会で対応している。	4-1-P1 通常委員会議事録(平成28年2月22日開催)

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## スポーツ健康科学研究科

### 大項目（評価の基準）： 4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示、教育目標と学位授与方針との整合性、修得すべき学修成果の明示
中項目(2)	(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示、科目区分・必修・選択の別・単位数等の明示
中項目(3)	(3) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方法と有効性、社会への公表方法
中項目(4)	(4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	現在も適切に行われており、現状を維持するように努める。	通常委員会で審議・了承し、検証結果を議事録に残す。
中項目(2)	現在も適切に行われており、現状を維持するように努める。	通常委員会で審議・了承し、検証結果を議事録に残す。
中項目(3)	年度当初の通常委員会で構成員に対し、教育の目標や理念を周知し、インターネットなどを活用し広く社会への公表するように努める。	通常委員会で審議・了承し、検証結果を議事録に残す。
中項目(4)	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について検証する。	通常委員会で審議・了承し、検証結果を議事録に残す。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	研究科の教育目標および3つのポリシーが作成され、これらは大学院便覧などの印刷媒体および大学院のホームページに掲載され、社会に公表されている。この教育目標に基づき、学位授与方針が制定されており、両者の整合性はとれている。学位取得に必要な学修成果はスポーツ健康科学研究科博士学位申請取扱細則に明示されている。これらの方針は現状を維持する。	既出1-GD1「大学院便覧」（三つのポリシー-■スポーツ健康科学研究科-頁未記入欄） 4-GD1「福岡大学大学院スポーツ健康科学研究科博士学位申請取扱細則」
中項目(2)	研究科の教育目標および学位授与方針に基づくカリキュラムおよびシラバスが作成されており、大学院入学試験要項および大学院便覧などの印刷媒体および大学院のホームページに掲載され、社会に明示されている。この方針を維持し、今後も公表活動を継続する。（1-GD1 189～196頁）（4-GD2 31～32頁・51頁）	既出1-GD1「大学院便覧」（教育目標-■スポーツ健康科学研究科-頁未記入欄） 4-GD2「福岡大学大学院入学試験要項」 4-GD3「福岡大学大学院シラバス」
中項目(3)	学位授与に必要な科目区分や必修と選択の別、修得すべき単位数などは大学院入学試験要項および大学院便覧などの印刷媒体および大学院のホームページに掲載され、社会に明示されている。この方針を維持し、今後も公表活動を継続する。（1-GD1 189～196頁）（4-GD2 31～32頁・51頁）	既出1-GD1「大学院便覧」 既出4-GD2「福岡大学大学院入学試験要項」
中項目(4)	毎年度、研究科の教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について、4月最初の通常委員会で確認・検討をする。	既出1-GD2「平成28年度 スポーツ健康科学研究科通常委員会議事録（4月6日）」

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 法科大学院

大項目（評価の基準）： 4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示
中項目(2)	(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
中項目(3)	(3) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方法と有効性、社会への公表方法
中項目(4)	(4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	

### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	教育目標の明示に関する現在の状況を維持、継続する。	学修ガイド等により現在と同程度の明示がなされているか否か。
中項目(2)	教育課程の編成・実施方針に関する現在の状況を維持、継続する。	学修ガイド等により現在と同程度の明示がなされているか否か。
中項目(3)	大学構成員への周知、社会への公表に関する現在の状況を維持、継続する。	学修ガイド、ホームページ等により現在と同程度の明示がなされているか否か。
中項目(4)	教育目標等の定期的検討がなされている現在の状況を維持、継続する。	カリキュラム検討委員会や教授会で定期的に検討がなされているか否か。

### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	満足すべき状況にある。	既出1-法科1 法科大学院学修ガイド3-4頁。
中項目(2)	満足すべき状況にある。	既出1-法科1 法科大学院学修ガイド3-4頁。
中項目(3)	満足すべき状況にある。	既出1-法科1 法科大学院学修ガイド3-4頁、4-1-法科1 本法科大学院ホームページ（「教育・教員」）
中項目(4)	満足すべき状況にある。	

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 人文学部

### 大項目（評価の基準）： 4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	順次性のある授業科目の体系的配置、専門教育、教養教育の位置づけ
中項目(2)	(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	学士課程教育に相応しい教育内容の提供、初年次教育・高大連携に配慮した教育内容

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	教育課程の体系性の明確化	カリキュラム・マップ等の整備がなされ、公表される。
中項目(2)	現在と同様、人材養成の目的を達成するために必要な教育を実施。	各学科による教育内容の検証

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	学部として教育課程の体形成を一層明確にするための取り組みは行われていない。カリキュラム・マップ等の整備及びその公表に向けての取り組みも行われていない。	
中項目(2)	平成27年度に引き続き、学部の人材養成の目標を達成するために必要な教育を実施している。各学科による教育内容の検証は行われていない。	

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 法学部

### 大項目（評価の基準）： 4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	必要な授業科目の開設状況、順次性のある授業科目の体系的配置、専門教育・教養教育の位置づけ
中項目(2)	(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	学士課程教育に相応しい教育内容の提供、初年次教育・高大連携に配慮した教育内容

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	今後も、授業科目の適切な配置、教育課程の体系的編成等を目指して、定期的な検証・改善を行う。	カリキュラム改正の適切性
中項目(2)	今後も、学士課程教育に相応しい教育内容の提供を目指して、定期的な検証・改善を行う	履修モデルの充実と履修登録学生数の増加

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	<p>昨年度改正された法学部カリキュラムを本年4月より施行し、本年度の入学から適用している（既出1-J3 学則1条2項2号、既出J1-3 学科履修規程2条2項、既出1-J3 学科履修規程4条別表（年次別授業科目表））。</p> <p>今回の改正は主として法律学科に関わるもので、同学科のコースを「法律総合」「公共法務」「総合政策」の3コースに再編するとともに（既出1-J3 学則1条2項2号、既出1-J3 学科履修規程4条別表（年次別授業科目表））、意欲ある成績優秀な学生を対象とする「法律特修プログラム」を設置した（既出1-J3 法学部法律学科の法律特修プログラムに関する内規）。また、卒業に必要な選択必修科目と自コース科目の単位数を引き上げ、経営法学科については卒業に必要な選択必修科目の単位数も引き上げた（既出1-J3 学科履修規程2条2項）。</p> <p>再編されたコースは、法律学科の卒業生として想定される進路・職業（法曹・法律専門職、民間企業、公務員、警察・消防、メディア・福祉など）を意識して設計を行い、学生の志望する進路に必要な科目が適切に配列されており、学科及びコースの趣旨に沿った内容の科目を提供している（既出1-J3 学科履修規程4条別表（年次別授業科目表））。</p> <p>また、本学部のカリキュラムは、教養教育の基礎の上に、専門教育科目として、学科のすべての専門教育の基礎となる必修科目、各専門分野の基盤科目である選択必修科目、コースの趣旨に沿って設置されたコース科目などから成り立っており、基本科目から応用科目へと順次性を考慮した科目配置がされている（既出1-J3 学科履修規程4条別表（年次別授業科目表））。</p> <p>そして、科目相互間の関係や順次性を容易に把握できるよう、法学部オリジナルのカリキュラムマップを作成し、学修ガイドに掲載するほか（既出1-J3 学部カリキュラムマップ・専門教育履修モデル100頁以下）、法学部ホームページで公開することによって便宜を図っている（4-2-J1）。さらにコースごとに専門教育履修モデルを提示することにより、将来の進路決定を踏まえてコース選択を行う際の参考として、かつ、適切な履修登録をするために活用されることを期している（既出1-J3 学部カリキュラムマップ・専門教育履修モデル103頁以下）。</p>	既出1-J3 学習ガイド平成28年度、4-2-J1 法学部ホームページ（「法律学科カリキュラム紹介」）
中項目(2)	<p>中項目(1)で述べたように、学科・コースの趣旨に従い、必要な科目を適切に配置し、学士課程教育にふさわしい教育内容を提供している（既出1-J3 学則1条2項2号、既出J1-3 学科履修規程2条2項）。講義科目のみならず、演習等の少人数科目も十分な数の授業を提供するとともに、学科・コースの趣旨に応じた独自の少人数科目（行政特別演習など）も設置している（4-2-J2）。また、学部生全員の必修科目である「民法入門」及び「民法総則」は、シラバス内容、テキスト、定期試験・中間試験の問題、成績評価基準を統一することにより、授業内容の標準化を図っている（4-2-J3 51～55頁、4-2-J4 50～53、58、59頁）。なお、今回のカリキュラム改正では、卒業に必要な選択必修科目と自コース科目の単位数を引き上げ、計画的な履修登録を促すようにしている（既出1-J3 学則1条2項2号）。</p> <p>初年次教育は、とくに高大接続を意識して、すべての学生（基礎ゼミ、パワーアップゼミの受講者を除く）を対象に法学部入門ゼミを開設し、法学部オリジナルのテキストである「法学部スタディガイド」（既出1-J6 i～iii、奥付）を用いて、法学または政治学の基礎知識の習得に加え、新入生が大学の授業に適応できるように必要なスキル（受講、報告・議論の仕方、レポートの書き方など）を身に付けられるようにしている（4-2-J4 34頁）。なお、法律学科においては、公務員職を志望する新入生のために東京研修を内容とする基礎ゼミ、経営法学科においては、英語力を増進させたい新入生を対象にパワーアップゼミを設置し、法学部入門ゼミの役割も兼ねて学科の特性に応じた初年次教育を行っている（4-2-J5）。</p>	既出1-J3 学習ガイド平成28年度、既出1-J6 法学部スタディガイド平成28年度、4-2-J2 平成28年度講義要目及び募集要項（演習科目用）、4-2-J3 平成27年度シラバス、4-2-J4 平成28年度シラバス、4-2-J5 平成28年度1年次少人数科目講義要目及び募集要項

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 経済学部

### 大項目（評価の基準）： 4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	①必要な授業科目の開設状況 ②順次性のある授業科目の体系的配置
中項目(2)	(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	①学士課程教育に相応しい教育内容の提供 ②初年次教育・高大連携教育に配慮した教育内容

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	経済学科では、平成10（1998）年度のカリキュラム改正以来、全体的な見直しを行っていないので、カリキュラムの再検討を今年度の事業に入れている。相当の時間がかかるであろうが平成30（2018）年までにその結果を出したい。	学修ガイドに新カリキュラムが掲載されること。
中項目(2)	初年次教育について教育内容を確定して実行に移す。	学修ガイドやシラバスに初年次教育について明記されること。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	両学科でのカリキュラムの再検討を進めている。	4-2-E1 平成27年10月23日 経済学部教授会議事録 4-2-E2 平成27年10月30日 経済学部教授会議事録 既出 1-E4 平成28年10月 14日経済学部教育推進委 員会議事録
中項目(2)	経済学科での初年次演習の効果を確認しつつ、専門必修科目を初年次後期に移し、順次性を確保するようにしている。	既出 4-2-E1 平成27年10 月23日経済学部教授会議 事録 既出 4-2-E2 平成27年10 月30日経済学部教授会議 事録 4-2-E3 平成28年度経済学 部シラバス 初年次演習・ ミクロ経済学

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 商学部

### 大項目（評価の基準）： 4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	必要な授業科目の開設状況、順次制のある授業科目の体系的配置、専門教育・教養教育の位置づけ
中項目(2)	(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	学士過程教育に相応しい教育内容の提供、初年次教育・高大連携に配慮した教育内容

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	時代・社会の要請に応じた科目体系の見直しとともに、科目群ごとの履修モデルを学生に周知する。	カリキュラム表における新設・統廃合科目。履修モデルの周知のためのスタディガイドの改訂。
中項目(2)	基礎ゼミナールおよび専門ゼミナールの履修率を高める。	基礎ゼミナール履修率、専門ゼミナール履修率

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	時代・社会の要請に応じた科目体系を形成するために、商学部および商学部第二部の両方において大幅なカリキュラム改正を行った。スタディ・ガイドの改訂についてはその存廃も含め検討中である。	既出4-C4 商学部教授会資料(平成28年10月12日) 1-18頁。
中項目(2)	平成28年度の2年専門ゼミナールの履修率は、学生へのアピールが功を奏し、2年連続で目標(80%)を上回る約81.7%となった。貿易学科のカリキュラム改正においては、「ステップアップゼミナール」を新設することにした。	既出4-C3 商学部教授会資料(平成28年7月13日) 2頁。既出4-C4 商学部教授会資料(平成28年10月12日) 1-18頁。

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 理学部

### 大項目（評価の基準）： 4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	必要な授業科目の開設状況、順次性のある授業科目の体系的配置、専門教育・教養教育の位置づけ。
中項目(2)	(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	学士課程教育に相応しい教育内容の提供、初年時教育・高大連携に配慮した教育内容。

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	カリキュラム上の科目の整理についての検討	検討の対象とした科目数の割合
中項目(2)	学生に対する教育内容の配慮	多様化した学生に配慮して教育内容・方法を工夫した科目数の割合

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	科目のナンバリングに関する検討を引き続き行った。またカリキュラムマップに関する検討開始した。 物理科学科では、教育課程の体系化のため、平成28年度以降入学者に対して、開講年次変更を行ったので、その変更内容に沿った教育を進めている。 地球圏科学科では、化学系科目の一部統合と情報系科目の開講年次変更を平成27年度から行っており、その変更内容に沿った教育を進めている。 (既出4-1-S2、既出4-1-S3)	既出4-1-S2 平成28年度学修ガイド（理学部） 既出4-1-S3 理学部教授会議事録、資料（平成26年9月30日）
中項目(2)	各学科ごとに Remedial 教育や初年次教育科目を設定している。また、多様な成績評価を可能とするために開講期間内評価科目の導入について検討をする旨の報告を行った。 全ての学科で Remedial 教育、初年次教育科目を設定している。（4-2-S1、4-2-S2）	4-2-S1 平成28年度シラバス（理学部） 4-2-S2 教授会議事録（平成28年9月27日）

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 工学部

### 大項目 (評価の基準) 4-2. 教育内容・方法・成果 (教育課程・教育内容)

#### I. 中項目 (点検・評価項目) ・評価の視点

中項目 (1)	(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	順次性のある授業科目は体系的に配置されているか、専門教育・教養教育は明確な位置づけがなされているか。
中項目 (2)	(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	学士課程教育に相応しい教育内容の提供されているか、初年次教育・高大連携に配慮した教育内容となっているか。

#### II. 到達目標・指標 (平成30年度までの到達目標及び指標) (Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目 (1)	時代・社会の変化に合わせて授業科目・教育課程の体系を再点検し、更なる改善を図る。および教育体系に配慮したシラバス記載内容の改善と、学生の学習体系への理解度向上。	入学生の学力、卒業生の就職状況の変化を分析した報告。上記分析結果を踏まえた科目設置・体系に関する点検・改善の検討。
中項目 (2)	専門科目と導入教育の連携性の強化および、成績分析に基づいた修学指導などのフィードバック系の構築など学生の学力の変化に合わせて教育内容を再点検し、更なる改善を図る。	各年次の学生の学力及び学習・生活状況の変化を分析した報告。上記点検結果を踏まえた点検・改善の検討。

#### III. 到達目標の進捗状況 (Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目 (1)	電気工学科・電子情報工学科では新たに履修系統図を作成した。教育課程について、化学システム工学科では体系の見直し、機械・社会デザイン工学科では微調整を行った。	4-2-T1 H28年度シラバス (工学部) 4-2-T2 工学部教育に関する会議議事録 (2015年11月18日)
中項目 (2)	学生の学力を細かく把握し、より相応しい教育を提供するために、次の取り組みを実施した。 ①1年次生に「宿泊研修」または「自分を知り、他者を知り、チームビルディングを行う」プログラム (教職員も参加) ②授業欠席率の高い学生の随時面談・指導。	4-2-T3 工学部教育に関する会議議事録 (2015年10月14日) 4-2-T4 H28年度教育推進経費申請書類: 計画案

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 医学部医学科

### 大項目（評価の基準）： 4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	医学科では必要な授業科目を開設し、順次性のある授業科目を体系的に配置している。看護学科では教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成している。必要な授業科目の開設状況。順序性のある授業科目の体系的配置。専門教育、教養教育の位置づけ。
中項目(2)	(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	医学科では初年次教育に配慮した教育内容になっている。理論と実務との架橋を図る教育内容を提供している。看護学科では教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供している。学士課程に相応しい教育内容の提供。初年次教育・高大連携に配慮した教育内容。専門分野の高度化に対応した教育内容の提供。理論と実務の架け橋を図る教育内容の提供。

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	医学部では、理論と実務との架橋を図る教育内容を提供する。	教育課程の編成・実施方針を指標にし、公開する。
中項目(2)	座学講義並びに実験実習により医学の基礎知識を広くかつ深く系統的に学べる工夫を目標にする。臨床で活かせる医学知識の習得を可能にするをカリキュラムを提示する。	教育課程の編成・実施方針を指標にし、公開する。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	医学科は教育課程の編成・実施方針に基づき、授業カリキュラムはFD推進・教務委員会や教授会での検討、公知、承認を経て、授業科目を適切に開設している。教育課程の編成に関しては、M1-M4は臨床前教育、M5, M6においては臨床実習を主体とする臨床教育を主体としている。良医の育成に向け、体系的かつ段階的な教育カリキュラムの編成を行っている。アウトカム基盤型教育を取り入れ、「FU-RIGHT」プロジェクトがスタートした。*FU-RIGHT: Relationship, Intelligence, Gentleness, Health, Teachingを重要なテーマとして、頭文字をとってFU（福岡大学）-RIGHTとニックネームをつけた。現在、出口から入口に向かって進捗を確認し、カリキュラムに落としとしていく作業を行っている。	医学部ホームページ、医学部教授会資料、医学教育検討委員会資料等。
中項目(2)	医学科の基礎医学講座では、各講座による座学講義並びに実験実習により医学の基礎知識を広くかつ深く系統的に学べる工夫を行っている。また、臨床医学では、臨床系各講座による座学講義並びに臨床実習により、臨床現場で活かせる医学知識の習得を可能にするをカリキュラムを提示している。実際、5年時には、臨床統合講義を実施しているが、授業内に、基礎・臨床が合体する講義形式である。	医学部ホームページ、医学部教授会資料、医学教育検討委員会資料等。

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 医学部看護学科

### 大項目（評価の基準）： 4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	医学科では必要な授業科目を開設し、順次性のある授業科目を体系的に配置している。看護学科では教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成している。必要な授業科目の開設状況。順序性のある授業科目の体系的配置。専門教育、教養教育の位置づけ。
中項目(2)	(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	医学科では初年次教育に配慮した教育内容になっている。理論と実務との架橋を図る教育内容を提供している。看護学科では教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供している。学士課程に相応しい教育内容の提供。初年次教育・高大連携に配慮した教育内容。専門分野の高度化に対応した教育内容の提供。理論と実務の架け橋を図る教育内容の提供。

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan:計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	医学部では、理論と実務との架橋を図る教育内容を提供する。看護学科においては、カリキュラムマップ・ツリーを策定し、体系的、授業科目の配置を検討し、カリキュラムポリシーを修正する。	教育課程の編成・実施方針を指標にし、公開する。看護学科においては、カリキュラムマップ・ツリーを策定し、養成する能力と各科目の対応関係を確認する。また、ツリーにおいては科目間の繋がり、順序性を確認する。
中項目(2)	座学講義並びに実験実習により医学の基礎知識を広くかつ深く系統的に学べる工夫を目標にする。臨床で活かせる医学知識の習得を可能にするカリキュラムを提示する。看護学科では、新たに提示される看護学教育モデル・コア・カリキュラムによるカリキュラムポリシーに基づき、初年次教育、高度化、地域包括ケアに対応した科目、実習科目の充実を図る。	教育課程の編成・実施方針を指標にし、公開する。看護学科においては、新たに提示される看護学教育モデル・コア・カリキュラムによるカリキュラムポリシーに基づき、カリキュラムマップ・ツリーを策定し、各課程で養成する能力に対応した、科目構成になっていることを確認する。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do:実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	看護学科の教育課程の構造は、教育目標に基づき、「共通教育科目」「専門基礎科目」「専門教育科目」で編成されている。共通教育科目は、幅広い教養を備え、豊かな人間性を育むことを目的とした科目であり、その学びを通して専門基礎科目、専門教育科目では看護を展開する上で必要な専門的知識、技術、健康問題を解決するための科学的思考能力、倫理的判断能力、人間関係形成力を修得するための科目を体系的に配置している。看護学科では看護師の国家試験受験資格、保健師の国家試験受験資格、養護教諭一種免許取得に必要な科目については学生の学修ガイドに明示している。すべての科目は履修可能な時間割で編成されている。	既出1-MN1 2016年大学案内 既出1-MN2 平成28年度 看護学科学修ガイド 既出4-MN2 平成28年度事業計画 達成のための取組み
中項目(2)	看護学科では、「共通教育科目は」、生命の尊厳に基づいた、総合的な人間性を養うことを目的とした看護専門職育成において基盤となる科目として、1～2年次に配置している。総合系科目では「生命倫理と医療技術」は、看護学科の学生が多く履修しているが、他学部の学生とともに充実した学びの場になり、好評を得ている。前述の共通教育科目と並行して初年次教育としてスタディスキルを開設し、大学生として新たな知を創造していくための基本的な学習スキルや社会的スキルを修得しするための一つの手法として協働学習に基づく主体的な学習活動を取り入れて継続し、行っている。また、看護の対象である人間理解において必要な専門基礎科目と看護の目的を達成するための看護の理論と技術については専門科目において学習し、これらの科目は学年進行に従って基礎から応用へと1年次から4年次にかけて段階的に学習を深めることができるように配置されている。「専門教育科目」の中の実習科目においては、本学科の教育理念、教育目標にある創造的、論理的・倫理的な実践能力の育成において、理論と実務の架け橋となる重要な科目である。学年進行に基づき、実習目標を達成するために必要な看護の理論、技術に関する科目履修後、2年次に基礎看護学実習を配置し、3年次後期に小児、成人、老年、母性、精神、在宅看護学実習を配置し、成人看護学実習においては4年次に跨って配置している。また、4年次には養護実習、公衆衛生看護学実習、統合科目として総合実習（必修）、医療の高度化に対応した感染看護、高度医療と看護、リハビリテーション看護（選択必修）が配置され、多くの学生が履修し、好評を得ている。	既出1-MN2 平成28年度 看護学科学修ガイド 既出1-基礎・領域実習実習要項（共通編）

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 薬学部

### 大項目（評価の基準）： 4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	必要な授業科目の開設状況、順次性のある授業科目の体系的配置。専門教育・教養教育の位置づけ
中項目(2)	(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	学士課程教育に相応しい教育内容の提供。初年次教育や高大連携に対応した教育内容の提供

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに沿った授業科目を体系的に配置し、開設する。専門教育・教養教育の位置づけを明確にする。	カリキュラム・ポリシー、カリキュラムマップ
中項目(2)	学士課程教育に相応しい教育内容を提供する。初年次教育や高大連携に対応した教育内容を実施する。	学修ガイド、シラバス

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、共通教育科目および専門教育科目を適切に開設している。また、専門教育科目は、分野ごとに基礎的な科目から応用・臨床科目に至るように体系的に編成している。カリキュラムマップを作成し、学生に明示している。	既出1-P2 平成28年度学修ガイド
中項目(2)	学士課程教育に相応しい基礎から臨床に至るまで専門教育内容を提供している。初年次教育として、薬学概論や早期臨床体験Ⅰを設置している。初年次の薬学導入教育として、1年次に薬学物理学入門、薬学化学入門、薬学生物学入門、薬学計算法などの科目を設置している。高大連携に対応した教育として、合格者に高校生時代に履修していない理科の科目の自己学習を促している。また、入学時にプレースメントテストを行い、成績下位者に対して補習教育を行っている。	既出1-P2 平成28年度学修ガイド 4-2-P1 平成28年度シラバス 4-2-P2 自己学習資料 4-2-P3 補習教育資料

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## スポーツ科学部

### 大項目（評価の基準）： 4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な授業科目の開設状況</li> <li>順次性のある授業科目の体系的措置</li> <li>専門教育・教養教育の位置づけ、</li> </ul>
中項目(2)	(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>初年次教育・高大連系に配慮した教育内容</li> </ul>

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan:計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に十分に編成している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学則に明記され、学修ガイドに明示している</li> </ul>
中項目(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>初年次教育・高大連系に配慮した教育内容になっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学修ガイド等に高大連携を配慮した初年次教育の科目を明示する</li> <li>初年次教育の内容をシラバスに明記する</li> </ul>

#### III. 到達目標の進捗状況(Do:実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年次生より、就職等の進路を見据えてコース推奨科目群を設定していることで、早い時期から学生の目的意識が明確になり、3年次生からのコース選択がスムーズにできている。したがって、教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に適切に編成している（1-G1 183～196頁）。</li> <li>本年度は大学全体として、学部・学科のディプロマポリシー（DP）を見直し、再策定を行っている。このDPを基に、次年度はカリキュラムポリシー（CP）の見直しと履修系統図（カリキュラムマップ等）の作成に進んでいく。今年度は、カリキュラムを見直し、「簿記入門Ⅰ」を専門教育科目から削除した。</li> <li>平成27年度より共通教育科目である「生涯スポーツ演習Ⅰ」のシラバス内容が変更され、3回のアクアエクササイズを含めたフィットネス演習となった。多様で、簡便で、安全な陸上運動を始め、安全に実施できる水中運動の実践と水中で自己の安全を確保する内容（浮具使用法や着衣泳など）を含めることで、ヘルスプロモーションへの意義づけをより明確にした。</li> <li>平成27年度より「生涯スポーツ演習Ⅰ・Ⅱ」に関する医学科学生のクラス指定を解除した。医学部カリキュラム改革に伴い、学生が先着順で履修クラスを選択できる措置である。</li> </ul>	<p>既出1-G1「平成28年度学修ガイドスポーツ科学部」学科履修規定第4条（年次別授業科目）</p> <p>既出4-1-G5「ポリシー見直しのためのガイドライン」</p> <p>既出4-1-G6「平成28年度教授会議事録」（11月16日）資料1</p> <p>4-2-G1「平成28年度教授会（1月6日）資料39</p> <p>4-2-G2「平成28年度教授会（6月1日）」資料51</p> <p>4-2-G3平成26年度教授会議事録（10月15日）資料8</p> <p>4-2-G4「平成27年度教授会議事録（4月2日）」資料34</p> <p>4-2-G5「平成27年度教授会議事録（4月22日）」資料7</p>
中項目(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>初年次導入教育を目的とした「フレッシュマンセミナーⅠ・Ⅱ」を必修科目とし、文章力向上教育、コミュニケーション能力の醸成によって日本語能力の向上を目指している（1-G1 183～196頁）。また、スポーツ科学部全教員によるオムニバス形式の授業で、スポーツ科学部入門教育を行っている。このように、初年次教育・高大連携に配慮した教育内容を行っている（4-2-G6 24～25頁）。</li> <li>共通教育科目の「生涯スポーツ演習」および「生涯スポーツ論」の授業においては、教科書を作成して、平成29年度より使用する予定である。</li> </ul>	<p>既出1-G1「平成28年度学修ガイドスポーツ科学部」</p> <p>4-2-G6「平成28年度シラバススポーツ科学部」</p> <p>既出4-2-G2「平成28年度教授会議事録（6月1日）」資料51</p>

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 人文科学研究科

### 大項目（評価の基準）： 4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	必要な授業科目の開設状況、順次性のある授業科目の体系的配置、専門教育・教養教育の位置づけ、コースワークとリサーチワークのバランス
中項目(2)	(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	専門分野の高度化に対応した教育内容の提供

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	研究科の教育・研究理念に基づく各専攻の教育目標の明確化	研究科及び各専攻のポリシー(アドミッション、カリキュラム、ディプロマ)の明確化
中項目(2)	各専攻毎にポリシーに基づくカリキュラムの編成と教育内容・方法の明確化	「目標」が授業シラバス及び授業内容・方法に反映(具体化)されること

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	研究科及び各専攻の三つのポリシー（アドミッション・カリキュラム・ディプロマ）に関して、明確化を求めて、一部修正を行った。	既出1-LD4 平成28年度大学院便覧 既出1-LD2 平成29年度大学院入学試験要項人文科学研究科 既出1-LD6 人文科学研究科通常委員会資料・議事録
中項目(2)	各専攻ともカリキュラムポリシーに従って、専門分野の高度化に対応した教育内容を提供している。史学専攻の博士課程前期では、様々な専門領域にわたる集中講義（非常勤講師）を開いている。日本語日本文学専攻の博士課程前期では、演習・特講の他に、様々な分野の特別講義を開いている。英語学英米文学専攻では、今年度海外からの招聘教授による特別講義・公開講演会を実施した。独語学独文学専攻の博士課程前期では、大学院担当者の2名増員により、専門分野の多様化を図った。仏語学仏文学専攻の博士課程前期では、フランス文化の普遍性を、仏語学と仏文学の研究を通して学べるようなカリキュラム編成になっている。社会・文化論専攻では、『美術史』の演習・講義科目を新設した。教育・臨床心理専攻では、特に心理師の国家資格化に向けて教育内容を編成している。	既出1-LD4 平成28年度大学院便覧 既出1-LD2 平成29年度大学院入学試験要項人文科学研究科 4-2-LD1 英語学英米文学専攻公開講演会

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 法学研究科

大項目（評価の基準）： 4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	コースワークとリサーチワークのバランス
中項目(2)	(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	専門分野の高度化に対応した教育内容の提供

### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	未開講科目を減少させる。	開講あるいは未開講科目の科目数。
中項目(2)	資格審査の条件整備。	条件が整備されること。

### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	昨年と比べて、開講科目が4科目ほど増加した。	4-2-JD-1平成27年度時間割；4-2-JD-2平成28年度時間割
中項目(2)	現在の審査基準に関する規程にしたがい、研究科前期・後期小委員会において、資格審査を実施している。	4-2-JD-3福岡大学大学院教育職員資格審査基準に関する規程

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 経済学研究科

### 大項目（評価の基準）： 4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	コースワークとリサーチワークのバランス
中項目(2)	(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	専門分野の高度化に対応した教育内容の提供

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	教育課程の編成等においてさらなる改善が可能かどうか、FD委員会や通常委員会にて検討を行う。	FD委員会資料 通常委員会議事録
中項目(2)	教育内容のさらなる改善が可能かどうか、FD委員会や通常委員会にて検討を行う。	FD委員会資料 通常委員会議事録

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	大学院の前期課程において、基礎分野を新設し、コースワークを強化する方針で、改革を進めている。	既出1-E D 4、通常委員会会議資料（10月28日、24-25項）、4-2-E D 1、通常委員会議事録（10月28日）
中項目(2)	基礎分野の設定とともに、 Semester制の導入を決め、基礎から専門分野へのステップアップ教育ができるよう、体制の整備を行っている。	既出4-2 E D 1、通常委員会議事録（10月28日）

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 商学研究科

### 大項目（評価の基準）： 4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	博士課程前期および博士課程後期における単位および履修方法の明示化
中項目(2)	(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	商学、貿易、経営、会計各分野における専門分野の高度化に対応した教育内容

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	未開講科目についてその見直しをも含め、減少させる。	未開講科目
中項目(2)	経済構造・産業構造の高度化により対応した科目の設置、開講	新科目の設置・開講

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	未開講科目について、本年度は博士課程前期において「リスク・マネジメント論講義」「リスク・マネジメント論研究」を開講した。	既出 1-CD2 2016年2月通常委員会資料。
中項目(2)	経済構造・産業構造の高度化により対応した科目の設置・開講に向けて通常委員会で審議している。	既出 1-CD5 2016年10月通常委員会資料。

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 理学研究科

### 大項目（評価の基準）： 4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	必要な授業科目の開設状況、順次性のある授業科目の体系的配置、専門教育・教養教育の位置づけ、コースワークとリサーチワークのバランス
中項目(2)	(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	専門分野の高度化に対応した教育内容の提供

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	現状のカリキュラムを維持する。	大学院便覧への記載
中項目(2)	現状のカリキュラムを維持する。	大学院便覧への記載

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	専修科目の見直しを行った。「講究」について、教育内容をより明確にするため、応用物理学専攻、化学専攻、地球圏科学専攻では2年通年科目を2つに分け、「講究Ⅰ」および「講究Ⅱ」（1年通年科目）とするカリキュラム改正を行った。（4-2-SD1）	4-2-SD1 理学研究科通常委員会議事録・資料（平成28年9月27日）
中項目(2)	各専攻の高度な専門分野に相応しい教育内容が提供されている。（既出1-SD1 95頁～114頁）	既出1-SD1 平成28年度大学院便覧

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 工学研究科

### 大項目（評価の基準）： 4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	コースワークとリサーチワークのバランス
中項目(2)	(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	専門分野の高度化に対応した教育内容の提供

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	他大学大学院と研究交流協定を締結し、履修科目だけでなく研究についても他大学で行うことを可能にする。	他大学大学院との研究交流協定締結実績及び研究交流を行った大学院生数で評価する。
中項目(2)	他大学大学院と研究交流協定を締結し、履修科目だけでなく研究についても他大学で行うことを可能にする。	他大学大学院との研究交流協定締結実績及び研究交流を行った大学院生数で評価する。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	大分大学大学院工学研究科と特別研究学生交流に関する協定を結び、博士課程前期の学生を他大学で研究指導させることが可能になった。(4-2-TD1)	4-2-TD1 福岡大学大学院工学研究科と大分大学大学院工学研究科との間における特別研究学生交流協定書
中項目(2)	大分大学大学院工学研究科と特別研究学生交流に関する協定を結び、博士課程前期の学生を他大学で研究指導させることが可能になった。(4-2-TD1)	4-2-TD1 福岡大学大学院工学研究科と大分大学大学院工学研究科との間における特別研究学生交流協定書

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 医学研究科

### 大項目（評価の基準）： 4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	必要な授業科目の開設状況、順次性のある授業科目の体系的配置、専門教育・教養教育の位置づけ、コースワークとリサーチワークのバランス
中項目(2)	(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	専門分野の高度化に対応した教育内容の提供（院）

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	専門科目のカリキュラムの見直し	カリキュラム再編
中項目(2)	カリキュラム実施方法の検討	講義形態の多様化

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	博士課程における、リサーチワーク（専門科目教育）については、平成27年度から各専攻科で講義、演習、実習の各項目に明確に分けたカリキュラム改正を行い、これを実施している。 （既出1-MD1） 修士課程では、高度専門看護師（クリティカルケア）コースの申請に伴い、従来の論文コースのカリキュラムとシラバスの見直しを行った。（既出 1-MD3）	既出 1-MD1 平成28年度大学院医学研究科博士課程シラバス 既出 1-MD3 平成28年度第3回医学研究科看護学専攻修士課程小委員会議事録及び添付資料
中項目(2)	博士課程におけるコースワーク（共通科目）に関しては、従来の対面型およびビデオストリーミングによる講義に加え、セミナー形式の演習（英語スキルアップゼミ）を新たに開始した。 （既出1-MD1 11～12頁） 修士課程では、高度専門看護師（クリティカルケア）コースの申請に伴い、従来の成人療養支援論論文コースの講義演習科目（前期・後期）を、特論に変更して通年の講義演習科目とするカリキュラムの見直しを行った。（既出 1-MD3） また高度専門看護師コースにおける病院実習を充実させるため、指導にあたる専門・認定看護師に臨床看護講師の称号を賦与することを決めた。	既出 1-MD1 平成28年度大学院医学研究科博士課程シラバス 既出 1-MD3 平成28年度第3回医学研究科看護学専攻修士課程小委員会議事録及び添付資料

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 薬学研究科

### 大項目（評価の基準）： 4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置
中項目(2)	(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	専門分野の高度化に対応した教育内容の提供（修・博士）

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	教育課程を毎年検証している。	通常委員会の議題
中項目(2)	授業シラバスが常に更新され、新しい内容に置き換わっている。	シラバスのチェック

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	教育課程を毎年通常委員会にて検証している。	既出1-P2 大学院便覧(平成28年度) 既出1-P4 福岡大学薬学研究科HP
中項目(2)	授業シラバスは毎年更新されている。適正な内容となっている。	既出1-P2 大学院便覧(平成28年度) 既出1-P4 福岡大学薬学研究科HP

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## スポーツ健康科学研究科

### 大項目（評価の基準）： 4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	必要な授業科目の開設状況、順次性のある授業科目の体系的配置、専門教育・教養教育の位置づけ、コースワークとリサーチワークのバランス（大学院）
中項目(2)	(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	学士課程教育に相応しい教育内容の提供、初年次教育・高大連携に配慮した教育内容、専門分野の高度化に対応した教育内容の提供（大学院）、理論と実務との架橋を図る教育内容の提供（専門職）

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているかを再度検証する。	通常委員会で審議・了承し、検証結果を議事録に残す。
中項目(2)	現在も適切に行われているが、さらに研究成果を講義などに反映させるように努める。	通常委員会で審議・了承し、検証結果を議事録に残す。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	博士課程前期には6つの部門（体育学、体力学、スポーツ医学、体育科教育学、コーチ学、運動健康学）が配置されているが、その各々に所属する教員全員が特修科目（選択科目）を担当し、特にスポーツ医学部門では、講義形式の授業と臨床の現場での実習形式の授業が対となって開講されているのが特徴である。これらは継続して開講している。さらに、教養的な位置づけを持つ科目として、博士課程前期では「体育学研究概論」、博士課程後期では「スポーツ健康科学研究法」が配置されており、他に各専修にコースワークとしての特講ⅠおよびⅡ、リサーチワークとしての特別研究がある。これらについては現状を維持していく予定である。これらの他に、フィールドワークとして学外研究および研修ⅠおよびⅡが履修可能であり、今年度1名が研修ⅠおよびⅡの両方を履修している。（1-GD-1 189～196頁）	既出1-GD1「大学院便覧」
中項目(2)	アメリカ合衆国、カナダ連邦、韓国を中心として国外の大学との共同研究や、大学病院や専門病院と共同研究を行い、心臓リハビリテーション、脳血管障害、肥満、糖尿病などの運動療法に関する最新の高度な研究事例などを講義などで展開している。このような国外の大学や研究機関との共同研究を通じてより高度な研究教育環境を維持していく予定である。また、学生の国際学会での発表を支援するための「国際学会発表スキル特論Ⅰ」を充実させるためにネイティブ教員（英国人語学教師）を非常勤講師として採用した。	既出4-GD3「福岡大学大学院シラバス」

# 平成28年度 自己点検・評価シート

法科大学院

大項目（評価の基準）： 4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

## I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	必要な授業科目の開設状況
中項目(2)	(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	理論と実務との架橋を図る教育内容の提供

## II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	必要な授業科目に関する現在の開設状況を維持、継続する。	現在と同程度の授業科目が開設されているか否か。
中項目(2)	理論と実務を架橋する具体的な教育方法論を確立し、各科目で実践する。	教育方法論が確立されているか否か。また、これに従った教育実践がなされているか否か。

## III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	満足すべき状況にある。 法学純粋未修者の教育を徹底する教育課程編成の方針に基づく授業科目の新設・配置に関する2013年度からの大幅なカリキュラム改正により、この2年間の司法試験合格率は一定の成果を上げており、徐々にではあるが改善の努力が実を結びつつある。	4-2-法科1 司法試験結果 (2012～2016年度)
中項目(2)	理論と実務の架橋という観点からは、研究者教員と実務家教員の合同・共同授業がより相応しいと考えられ、2015年度に1科目実施したほか、2017年度には数科目の実施を予定している。また、他の教員からの授業参観や教授会の意見交換において研究者教員と実務家教員の認識を一致させながら、理論と実務の架橋を意識した授業を行っている。	

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 人文学部

### 大項目（評価の基準）： 4-3. 教育内容・方法・成果（教育方法）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	教育目標の達成に向けた授業形態の採用、履修科目登録の上限設定、学習指導の充実、学生の主体的参加を促す授業方法
中項目(2)	(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実、授業内容・方法とシラバスの整合性
中項目(3)	(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）、単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性、既修得単位認定の適切性
中項目(4)	(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	学術の進展および社会の要請に応じた教育の実施	教育の充実に向けたカリキュラム改正や教育方法の改善
中項目(2)	シラバス記載内容の充実	各学科によるシラバス・チェックの実施
中項目(3)	現状のとおり厳格な単位認定が行われる	規程・基準に則った単位認定作業の実施
中項目(4)	教育内容・方法の改善に向けた取り組みの継続	各学科で教育の改善に向けた取り組みが毎年実施されていること

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	ディプロマ・ポリシーの見直しに伴って、カリキュラム改正の検討を行っている(既出3-L-7)。今年度のカリキュラム改正は、商学部のカリキュラム改正に伴う科目名変更にとどまっている(4-3-L-1)。	既出3-L-7人文学部教授会議事録教授会議事録、4-3-L-1人文学部教授会資料
中項目(2)	昨年度と同様に各学科によるシラバス・チェックを実施する予定である(4-3-L-2)。	4-3-L-2シラバスチェック依頼書
中項目(3)	現状の通りの単位認定を行っている。	
中項目(4)	FD関係の研修への参加を教員に呼び掛けている。FD委員会では、例年2月にFD研修での出張を行っており、今年度も同様の出張を行う予定である(4-3-L-3)。	4-3-L-3出張申請画面(写)

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 法学部

### 大項目（評価の基準）： 4-3. 教育内容・方法・成果（教育方法）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習）の採用、履修科目登録の上限設定、学習指導の充実、学生の主体的参加を促す授業方法
中項目(2)	(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実、授業内容・方法とシラバスとの整合性
中項目(3)	(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）、単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性、既修得単位認定の適切性
中項目(4)	(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	今後も、全学的な基準に基づいて授業形態等を適切に堅持するが、本学部独自の学生の主体的参加を促す授業形態の検証・改善を行う。	教育方法・学習指導の適切性、学生の主体的参加を促す方策の改善
中項目(2)	今後も、全学的基準に基づいてシラバスを作成、授業内容・方法とシラバスとの整合性を確保する。	シラバスの充実度、現実の授業との整合性の確保
中項目(3)	今後も、全学的な基準に基づいて成績評価等を進める。	成績評価と単位認定の適切性
中項目(4)	今後も、授業の改善を目指す全学的取組みに積極的に参加する。	組織的研修・研究への本学部教員の参加

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	法学部入門ゼミなどの1年次演習科目（4-3-J1）、2年次以降の専門演習科目及び双方向型授業を実施する特講科目などの少人数授業科目（4-3-J2）において、学生の主体的参加を内容とする授業が行われている。とくに1年次演習科目については授業改善のための「1年次少人数科目担当者懇談会」を開催し、いかに学生を授業に主体的に参加させるかにつき、実践例を互いに紹介しあい、意見交換を行った（4-3-J3）。 各学年の上限単位数は厳しく設定されており、学生は無理なく計画的に授業プランを立てることが可能である（4-3-J4 66頁、既出1-J3 各学部留意事項67頁）。	既出1-J3 学習ガイド平成28年度、4-3-J1 平成28年度1年次少人数授業科目講義要目及び募集要項、4-3-J2 平成28年度講義要目及び募集要項（演習科目用）、4-3-J3 教授会資料平成28年4月19日、4-3-J4 学修ガイド平成27年度
中項目(2)	カリキュラム委員会およびFD委員会のメンバーによって、各科目担当者から提出されたシラバスの内容をチェックしており（4-3-J5）、また、授業アンケートを実施することにより、シラバスと現実の授業の整合性を検証している（4-3-J6）。	4-3-J5 教授会資料平成28年1月26日、4-3-J6 法学部ホームページ（「2016年度前期法学部授業アンケート結果集計」）
中項目(3)	成績審査規程1条および2条にもとづき、適切に成績評価を行っており、また、成績評価基準は、第三者のチェックを受けたシラバスに明記されており、その適切性が担保されている（4-3-J5）。	4-3-J5 教授会資料平成28年1月26日
中項目(4)	中項目（1）で記したように、新入生向けの少人数授業科目（法学部入門ゼミ、基礎ゼミ、パワーアップゼミなど）の担当者を対象に、問題意識を共有し、授業改善のための情報交換などを目的として懇談会を開催した（4-3-J3）。	4-3-J3 教授会資料平成28年4月19日

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 経済学部

### 大項目（評価の基準）： 4-3. 教育内容・方法・成果（教育方法）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	①教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 ②履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 ③学生の主体的参加を促す授業方法 ④実務的能力の向上を目指した教育方法
中項目(2)	(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	①シラバスの作成と内容の充実 ②授業内容・方法とシラバスとの整合性
中項目(3)	(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	①厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）、単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 ②既修得単位認定の適切性
中項目(4)	(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	①授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	教育目標の達成に適切なカリキュラムだが、現状維持に努め、さらなる向上を目指す。	教授会議事録。
中項目(2)	現状維持に努め、さらなる向上を目指す。	教授会議事録。
中項目(3)	学生に対して、定期試験勉強だけでなく、原則1単位45時間学習させるようなさらなる工夫を行う。	FD委員会および教授会議事録。
中項目(4)	授業評価アンケートの実施率100%を目指す。	授業評価アンケートの実施率。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	現状維持に努め、さらなる向上を目指している（1-E2 134-165頁）。	既出 1-E2 平成28（2016）年度経済学部学修ガイド 既出 4-2-E3 平成28年度
中項目(2)	現状維持に努め、さらなる向上を目指している。	既出 4-2-E3 平成28年度 経済学部シラバス
中項目(3)	シラバスを通じて、講義以外の学習時間の確保とその重要性を喚起している。	4-3-E1 平成28年度シラバス（授業計画書）作成のためのガイドライン
中項目(4)	授業評価アンケートや卒業生アンケートを実施している。	4-3-E2 経済学部授業評価アンケート 4-3-E3 経済学部卒業生アンケート調査 既出 4-1-E3 平成28年7月8日経済学部教授会議事録 4-3-E4 平成27年度教育改善活動報告

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 商学部

### 大項目（評価の基準）： 4-3. 教育内容・方法・成果（教育方法）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用、履修科目登録の上限設定、学習指導の充実、学生の主体的参加を促す授業方法
中項目(2)	(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実、授業内容・方法とシラバスとの整合性
中項目(3)	(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明記)、単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性、既修得単位認定の適切性
中項目(4)	(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

#### II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)(Plan:計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	1クラスの上限人数を300人未満とする。修学指導対象者を減らす。	1クラスの受講者数、修学指導対象者率
中項目(2)	シラバスと講義内容の整合性を高める。	授業アンケート結果
中項目(3)	成績問合せ制度により成績を修正する件数を減らす。	成績問い合わせ制度による成績修正件数
中項目(4)	FD関連の研修会やシンポジウム等への参加者数を増加させる。	FD関連の研修会やシンポジウム等への参加者数

#### III. 到達目標の進捗状況(Do:実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	300人を超える大クラスは段階的に減らす教務委員会の方針に従い、当面、350人を超えるクラスの解消を目指した。商学部における登録制限科目に関する条件を設けた結果、の350人以上のクラスが平成26年度は11クラス、平成27年度は9クラスであったのに対して、平成28年度は7クラスに減少した。平成28年度の2年次生修学指導対象者率は前年度19.3%より大幅に改善し、13.8%となった。平成27年度から、1年前期で成績不振だった学生を対象にして商学部全スタッフにより個別指導を行った効果があったものと考えられる。	4-C5 教務委員会資料(平成28年4月11日)、3頁。4-C6 教授会資料(平成28年5月18日)、3-7頁。
中項目(2)	シラバスの内容に関しては、教務委員会が公表した「シラバス作成のためのガイドライン」に基づき、各教員に作成を依頼し、各学科主任および教務委員がチェックを行った。	4-C7 教授会資料(平成27年12月16日)、1頁および4C-8 教授会資料(平成28年1月15日)、1頁。
中項目(3)	成績問合せ制度により成績の修正が行われたのは、平成27年度前期は0件であったが、平成27年度後期は1件、平成28年度前期は2件であった。	4-C9 教授会資料(平成28年12月21日)。
中項目(4)	学外で行われる研修会等への参加は例年どおりであったが、カリキュラム改正に伴い、教学問題検討委員会においてカリキュラム・ポリシーやディプロマ・ポリシー等に関して造詣の深い村上教授にご説明をいただく機会を設けるなど、商学部独自のFD関連活動を実施し、FD活動への参加者を増加させる取り組みを行った。	

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 理学部

### 大項目（評価の基準）： 4-3. 教育内容・方法・成果（教育方法）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用、履修科目登録の上限設定、学習指導の充実、学生の主体性参加を促す授業方法
中項目(2)	(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実、授業内容・方法とシラバスとの整合性。
中項目(3)	(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）、単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性、既修得単位認定の適切性。
中項目(4)	(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施。

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	講義科目と演習科目の適正なバランスの維持 物理科学科、化学科、地球圏科学科の年間修得単位数の上限を50単位未満とするカリキュラム改正	講義・実験・演習などの開講数の割合、年間修得単位数の上限。
中項目(2)	シラバスに示された授業内容・方法の実施	シラバスに沿って実施される授業の割合。
中項目(3)	シラバスの評価に関する適切な記述状況の維持	シラバスに評価について記述されている科目の割合。
中項目(4)	FD活動への教員の参加状況の改善	講演会などへの教員の参加率。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	講義・実験・演習などの開講割合や年間習得単位数の上限がバランスのとれたものになっている。物理科学科では、平成27年度以降の入学者に対して、年間修得単位数の上限を48単位へと削減した。地球圏科学科では、平成27年度より年間修得単位数の上限を49単位に削減した。 (既出4-1-S3)	既出4-1-S3 理学部教授会議事録・資料（平成26年9月30日）
中項目(2)	各学科：すべての講義科目で、15回分内容がシラバスに記載されている。(既出4-2-S1)	既出4-2-S1 平成28年度シラバス（理学部）
中項目(3)	各学科：すべての講義科目で、評価方法がシラバスに記載されている。(既出4-2-S1、4-3-S1)	既出4-2-S1 平成28年度シラバス（理学部） 4-3-S1 平成28年度シラバス（授業計画書）作成のためのガイドライン
中項目(4)	教務委員、教育開発支援機構委員及び教務連絡委員はFD活動に対する教職員への情宣を行っている。物理科学科では、学科内でFD講演会を開催し、多くの学科構成教員が参加して教員意識改善に努めている。また、学外で開催されるFD講演会等にも積極的に参加している教員もいる。(既出4-2-S2、既出3-S3 25頁)	既出4-2-S2 理学部教授会議事録（平成28年9月27日）、既出3-S3 理学部・理学研究科年報2015

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 工学部

### 大項目 (評価の基準) 4-3. 教育内容・方法・成果 (教育方法)

#### I. 中項目 (点検・評価項目)・評価の視点

中項目 (1)	(1) 教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実
中項目 (2)	(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実、授業内容・方法とシラバスの整合性
中項目 (3)	(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価 (評価方法・評価基準の明示)
中項目 (4)	(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

#### II. 到達目標・指標 (平成30年度までの到達目標及び指標) (Plan : 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目 (1)	進級時の学年関門単位数の見直しを行う。	年間登録単位数の上限値
中項目 (2)	シラバスの記載内容の充実度を保ち、授業内容・方法との整合性を保証する。	授業アンケートの評点
中項目 (3)	厳格な成績評価の徹底を維持する。	授業アンケートと成績分布
中項目 (4)	教育マネジメントのPDCAサイクルを継続的に実施する。	教育マネジメント実施報告書PDCAサイクルの継続的な実施について掲載がなされているかどうか

#### III. 到達目標の進捗状況 (Do : 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目 (1)	修学指導の該当要件を明確にし、欠席者に対しては再三に渡り呼び出して確実に指導を行なっている。	4-3-T1 教授会資料 4-3-T2 工学部教育に関する会議議事録 (2016年4月13日)。
中項目 (2)	シラバスの記載内容について第三者によるチェックや授業アンケート調査により授業がシラバスに基づいて展開しているかの確認を行った。	既出4-2-T2、4-3-T3 教授会・教育に関する会議のシラバスチェックに関する議事録 (教育に関する会議では2015年1月21日と11月18日)、 4-3-T4 授業アンケート関連資料
中項目 (3)	成績評価基準をシラバス等で公表している。また、アクティブラーニングなど多様な授業形態に対応できるように評価基準や方法の見直しも行なった。更に、成績評価について学生から問い合わせ制度も実施している。	4-3-T5 工学部教育に関する会議議事録 (2015年6月17日、2016年6月15日)
中項目 (4)	教育マネジメントのPDCAサイクル、授業アンケート調査及びそのデータの公開も実施しており、また、時代のニーズや変化に応じてカリキュラムの内容の見直しも行なっている。	4-3-T4 授業アンケート関連資料、 4-3-T5、4-3-T6 工学部教育に関する会議議事録 (カリキュラムの見直しは、教育に関する会議の2015年6月17日、2016年6月15日、2016年10月12日)。

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 医学部医学科

### 大項目（評価の基準）： 4-3. 教育内容・方法・成果（教育方法）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	医学科では、教育目標の達成に向けた授業形態を採用し、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導を行っている。看護学科では、教育方法および学習指導は適切である。教育目標の達成に向けた授業形態。履修科目登録の上限設定、学習指導の充実。学生の主体的参加を促す授業方法を採用している。
中項目(2)	(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容は充実している。授業内容・方法とシラバスとの整合性はとれている。
中項目(3)	(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	医学科は厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）を行っている。看護学科では成績評価と単位認定は適切に行われている。単位制度の趣旨に基づく単位認定・既修得単位認定は適切に行われている。
中項目(4)	(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るためのワークショップや委員会を実施している。

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	教育目標の達成に向けた授業形態を採用し、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導、教育目標の達成に向けた授業形態。履修科目登録の上限設定、学生の主体的参加を促す授業方法を目標とする。	医学部と病院を一体化した取り組み、ロールプレイによる全体の底上げ、クリニカルクラークシップの充実
中項目(2)	シラバスに基づいて、通常講義と臨床実習を中心とした授業を展開する。変更事由が発生した際は、修正したシラバスを掲示し学生に周知するとともに、対策を協議する。	ホームページやパンフレットによる周知、定期的な検証を指標にする。
中項目(3)	成績評価と単位認定は、筆記試験と実習内容により、総合的に判断している。教務委員会で審議、検討の上、教授会で最終決定している。本校の履修科目に該当するシラバスと照合し、教育内容・方法・評点を確認し審査を行う。	教育ユニット形成に着手し、医学教育推進講座をその核に据え、スタッフカンファレンスを行うことで、進捗の指標とする。
中項目(4)	授業内容や教育方法の適切性を、様々な委員会で検証する。また、父母後援会総会を通して学生会の父母にも情報公開し、授業評価アンケート結果を開示する。	アンケート調査（学生、父母）をその指標にする。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	医学科は、講義では、授業プリントを中心に授業を進めると同時に、症例などの提示では、スライドを使った視覚的授業が行われている。5年生の病棟臨床実習では、患者さんのご協力のもと、病歴聴取、診察、検査所見などを記載し、回診、プレゼンテーション、教官との議論を通じて、臨床に根ざした医学的知識を学生が主体的に習得するよう工夫している。5年生、6年生の診療参加型臨床実習では、基本的に研修医と同じ動きで病棟診療に主体的に参加することで、より実践に近い臨床実習を行っている。採血、検査手技、診療方針の説明同意等、すべて立ち会う形で診療に参加している。	医学部ホームページ、医学部教授会資料、医学教育検討委員会資料等。
中項目(2)	医学科では、教育カリキュラムの詳細な内容は、シラバスに明記され学内に向けて周知されている。また、対外的にも、授業カリキュラム編成の概略や、各講座の特色等は、各講座が作成したHPを通じて、閲覧可能となっている。シラバスに基づいて、通常講義と臨床実習を中心とした授業が展開されている。平成28年度より、医学科卒業時アウトカムをホームページに掲載している。	医学部ホームページ、医学部教授会資料、医学教育検討委員会資料等。
中項目(3)	医学科では、成績評価と単位認定は、筆記試験と実習内容により、総合的に判断している。本試験の受験が事情により叶わなかった者には追試験、不合格者には再試験を行っている。最終的な合否判定は、一度、教務委員会で審議、検討の上、教授会で最終決定している。	医学部ホームページ、医学部教授会資料、医学教育検討委員会資料等。
中項目(4)	医学科では、授業内容や教育方法の適切性を、カリキュラム検討委員会、FD推進・教務委員会、教授会等の機会に教育方法の検証を行っている。また、「医学教育ワークショップ」では学外講師を招いた講習会をはじめ、医学教育技法についての紹介や現在の教育方法に関する議論を行っている。これらのことを通じて、適時、授業内容の変更等を行っている。また、父母懇談会、父母後援会総会を通して学生会の父母にも情報公開し、父母からの要望等の聴取を行った上、授業内容に反映させている。	医学部ホームページ、医学部教授会資料、医学教育検討委員会資料等。

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 医学部看護学科

### 大項目（評価の基準）： 4-3. 教育内容・方法・成果（教育方法）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	医学科では、教育目標の達成に向けた授業形態を採用し、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導を行っている。看護学科では、教育方法および学習指導は適切である。教育目標の達成に向けた授業形態。履修科目登録の上限設定、学習指導の充実。学生の主体的参加を促す授業方法を採用している。
中項目(2)	(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容は充実している。授業内容・方法とシラバスとの整合性はとれている。
中項目(3)	(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	医学科は厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）を行っている。看護学科では成績評価と単位認定は適切に行われている。単位制度の趣旨に基づく単位認定・既修得単位認定は適切に行われている。
中項目(4)	(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るためのワークショップや委員会を実施している。

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	教育目標の達成に向けた授業形態を採用し、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導、教育目標の達成に向けた授業形態。履修科目登録の上限設定、学生の主体的参加を促す授業方法を目標とする。	医学部と病院を一体化した取り組み、ロールプレイによる全体の底上げ、クリニカルクラークシップの充実
中項目(2)	シラバスに基づいて、通常講義と臨床実習を中心とした授業を展開する。変更事由が発生した際は、修正したシラバスを掲示し学生に周知するとともに、対策を協議する。	ホームページやパンフレットによる周知、定期的な検証を指標にする。
中項目(3)	成績評価と単位認定は、筆記試験と実習内容により、総合的に判断している。教務委員会で審議、検討の上、教授会で最終決定している。本校の履修科目に該当するシラバスと照合し、教育内容・方法・評点を確認し審査を行う。	教育ユニット形成に着手し、医学教育推進講座をその核に据え、スタッフカンファレンスを行うことで、進捗の指標とする。
中項目(4)	授業内容や教育方法の適切性を、様々な委員会で検証する。また、父母後援会総会を通して学生会生の父母にも情報公開し、授業評価アンケート結果を開示する。	アンケート調査（学生、父母）をその指標にする。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	看護学科では専門基礎科目や専門教育科目について、18科目でe-Learningシステム(Moodle)を用いて教材や資料のweb配信を行っている。これによって、自宅や学内で予習・復習を自動的に簡便に行うことができ、技術習得に必要な教材や資料をいつでも取り出し繰り返して学習できる環境となっている。さらに必要に応じて小テストを実践している。これらによって学生の理解度や技術習得状況を把握し、双方向の教授活動につながっている。また、看護必修科目の演習において、学習者中心の教育を意識し、看護実践力の向上を目指してシミュレーション教育を取り入れている。	既出1-MN2 平成28年度看護学科学修ガイド 福岡大学Web e-Learningシステム (Moodle)
中項目(2)	看護学科では、シラバスに基づいた授業の展開を基本にしている。変更事由が発生した際は、修正したシラバスを掲示し学生に周知するとともに、事務に書類を提出し承諾を得る。休講する場合は休講届けを提出し補講申請の手続きをとり規定の講義時間を実施している。	既出1-MN2 平成28年度看護学科学修ガイド
中項目(3)	看護学科では、シラバスに示した成績評価基準と方法に基づいて定期試験や課題提出等による成績評価を行っている。単位認定は教務委員会で審議したあと教授会議において単位認定を実施している。既習得単位認定は申請された科目のシラバスを取り寄せ、本校の履修科目に該当するシラバスと照合し、教育内容・方法・評点を確認し審査を行う。最終的に教授会議で単位認定に関する審議を行う。	既出1-MN2 平成28年度看護学科学修ガイド
中項目(4)	看護学科ではFD委員会が主催して、外部講師による「FDマザーマップを活用した自組織の課題発見、問題解決に向けて」の講演会を開催し、平成27年度より継続してFDマザーマップを用いた【教育】の組織評価に取り組み、【教育】に関する組織課題について検討し、組織の問題解決に向けて各教員がFD活動を考えられるようにした。さらに外部講師による「教育活動の自己省察からはじまる教育改善～ティーチング・ポートフォリオ(TP)の活用～」の講演会を開催し、TPの理解を通して各教員が自分の教育活動をとらえなおし、よりよいあり方を描けるようにした。またFD委員会では学生による授業評価アンケート結果を開示している。科目責任者はアンケート結果をもとに授業を振り返り、次年度にむけた対策をまとめ提出し授業改善を図っている。	平成27年度医学部看護学科FD活動法報告書報告書 および看護学科常設委員会 (FD実習委員会) 平成28年度活動方針

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 薬学部

### 大項目（評価の基準）： 4-3. 教育内容・方法・成果（教育方法）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・実習・実験等）の採用。学生の主体的参加を促す授業方法
中項目(2)	(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実
中項目(3)	(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性
中項目(4)	(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の実施を検討する。	該当授業科目の設置
中項目(2)	授業科目の関連性および順次性がわかるようにシラバスや学修ガイドを作成する。	シラバス、学修ガイド
中項目(3)	現在の厳正な成績評価を継続する。	項目別配点表、成績評価根拠資料
中項目(4)	薬学教育に関する講演会やワークショップを実施し、学部教員全体でさらなる教育改善を押し進める。	授業アンケート、FD活動の資料

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	教育研究の理念・目的の達成に向けた授業形態として、講義形式の科目以外に実習形式や演習形式の科目も設定しており、学生が主体的に参加し、問題解決能力を醸成するような教育方法を採用している。その科目として早期臨床体験ⅠでのSGD（1年次）や実務実習事前教育でのPBL（4年次）に加えて、H28年度より早期臨床体験Ⅱ（2年次）を取り入れた。	既出1-P2 平成28年度学修ガイド 既出4-2-P1 平成28年度シラバス
中項目(2)	シラバスには、一般目標、到達目標、学習方法、授業時間外の学習（予習・復習）、成績評価基準および方法、テキスト、参考書、15回の授業計画を記している。平成27年度以降の入学生に対しては、授業計画に改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムの到達目標の番号を明示している。	既出4-2-P1 平成28年度シラバス
中項目(3)	シラバスに記載した成績評価基準に従い、厳正な成績評価を行い、教員には項目別配点表の提出を義務化している。また教員には、成績発表まで学生からの成績に関する問い合わせには応じないことを徹底させ、適切に単位認定を行っている。	既出4-2-P1 平成28年度シラバス 4-3-P1 項目別配点表
中項目(4)	各年度の薬剤師国家試験合格率、各学年の留年率、授業アンケートの結果などを学年・学期ごとに教授会に報告し、教育成果について定期的な検証を行い、教育内容や方法の改善に結びつけている。また、授業の内容および方法の改善を図るための講演会やFD研修会を行っている。	既出3-P5 授業アンケート 既出3-P6 平成28年度第2回教授会資料 既出1-P9 薬剤師国家試験結果 既出3-P11 FD活動の資料

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## スポーツ科学部

### 大項目（評価の基準）： 4-3. 教育内容・方法・成果（教育方法）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用</li> <li>・履修科目登録の上限設定、学習指導の充実</li> <li>・学生の主体的参加を促す授業方法</li> </ul>
中項目(2)	(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実、授業内容・方法とシラバスの整合性
中項目(3)	(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）</li> <li>・単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性、既修得単位認定の適切性</li> </ul>
中項目(4)	(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業内容及び方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	・学生の主体的参加を促す授業方法が多くの授業で行われている。	・授業方法を調査し、学生の主体性を促す授業が専門の授業で50%以上である。
中項目(2)	・今後もシラバスの内容が充実し、授業内容・方法とシラバスの整合性が十分にとれている。	・これまで通りシラバスチェックを厳格に行う。
中項目(3)	・引き続き厳格な成績評価を行っている。	・これまで通りシラバスにおいて評価方法・評価基準を明示し、成績評価を行う。
中項目(4)	・引き続き授業内容及び方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施をしている。	・これまで通り授業アンケートによる授業改善報告書の作成を行う。また、研修の回数を倍増する。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）は、適切に開設されている。</li> <li>・履修科目登録の上限設定は、「1年間に46単位を超えてはならない」と学習ガイドに明記している（1-G1 130、139～142、144頁）。</li> <li>・学生の主体的参加を促す授業方法は、各教員に任されているが、講義科目以外の実験・実習、ゼミ・演習、実技などにおいては、多く行われている。</li> <li>・今年度より、開講期間内評価科目の設定を行い、定期試験以外で多様な評価方法を用いることができるようになった。それに伴い、学生主体の双方向的な授業形態ができるようになる。</li> </ul>	<p>既出1-G1「平成28年度学修ガイド スポーツ科学部」</p> <p>既出4-2-G6「平成28年度シラバス スポーツ科学部」</p> <p>既出4-1-G6「平成28年度教授会議事録（11月16日）」資料12</p>
中項目(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスチェックは、教務委員およびFD・SD委員会、共通教育センター委員により、シラバスチェックを行い、修正依頼を行うなどして、シラバス内容の充実に努めている。</li> <li>・授業改善報告書の中で「シラバスに示した到達目標に対する自身の評価と学生の到達状況について」という項目を設定し、各教員はもとより、FD・SD委員会において、授業内容・方法とシラバスの整合性が取れているか確認ができるようにしている。</li> </ul>	<p>既出4-1-G1「平成28年度教授会議事録（1月6日）」資料38</p> <p>既出3-G10「平成28年度教授会（9月30日）」別添2</p>
中項目(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福岡大学学則の成績考査規程によって、成績評価、単位認定が厳格に規定されている。講義科目については定期試験を行い、60点を単位認定の最低限度としている（1-G1 197頁）。ゼミ・演習や実験・実習などはレポート等の提出で評価し、実技は授業への取り組みを考慮して、実技試験等を行って評価している。各科目のシラバスにおいても成績評価基準とその方法が明記され、単位認定が適切に行われている。</li> </ul>	<p>既出1-G1「平成28年度学修ガイド スポーツ科学部」</p> <p>既出4-2-G6「平成28年度シラバス スポーツ科学部」</p>
中項目(4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容及び方法の改善を図るための組織的研修は、教育開発支援機構が主催している教育改善活動フォーラムやE-ラボへの参加を促す案内を行っている（①②③④）。</li> <li>・スポーツ科学部FD・SD委員会が、授業アンケートの結果を受けてスポーツ科学部全教員より提出される授業改善報告書を授業改善報告書まとめに集約・総括し、教授会で報告することで、授業改善のための情報共有を図り、各教員による実践を促している。授業改善報告書の内容からは、全教員による授業改善のための積極的かつ継続的な努力が看取される（⑤⑥）。</li> <li>・学部内において学生指導および教授法の改善・開発のための全教員に向けたワークショップを開催している〔平成28年1月14日実施、平成29年1月13日実施予定〕（⑦⑧⑨）。</li> </ul>	<p>既出3-G10「平成28年度教授会（9月30日）」資料24 ①</p> <p>既出4-2-G2「平成28年度教授会議事録（6月1日）」資料41 ②、③</p> <p>既出4-1-G16「平成28年度教授会議事録（11月16日）」資料36 ④</p> <p>既出3-G9「平成28年度教授会議事録（1月6日）」資料46 ⑤</p> <p>既出3-G10「平成28年度教授会（9月30日）」別添2 ⑥</p> <p>既出3-G15「平成28年度教授会議事録（2月5日）」⑦⑧</p> <p>4-3-G1「平成28年度教授会議事録（10月19日）」『ワークショップの開催について』⑨</p>

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 人文科学研究科

### 大項目（評価の基準）： 4-3. 教育内容・方法・成果（教育方法）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	教育目標の達成に向けた授業形態の採用、履修科目登録の上限設定、学習指導の充実、学生の主体的参加を促す授業方法、研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導
中項目(2)	(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実、授業内容・方法とシラバスとの整合性
中項目(3)	(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価、単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性、履修単位認定の適切性
中項目(4)	(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	博士課程前期と後期の接続的指導体制の構築	博士課程前期に「特選題目研究」(案)とする授業科目(選択)を設置する。
中項目(2)	シラバスの内容と実際の授業内容の整合性を高める。	学年暦中に「授業計画作成期間」(仮称)を設けるなど、シラバスの効果を高める措置を講じる。
中項目(3)	学生の履修状況等に関する教員間の情報交換を促進する。	各専攻毎に、定期的な履修・成績評価会議(仮称)を設置する。
中項目(4)	研究科FD委員会(人文学部FD委員会と連動)を設置し、定期的な研究・研修システムを構築する。	人文科学研究科自己点検・評価委員会(仮称)の設置と作業内容(評価対象・方法・基準等)の設定

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	各専攻とも授業は学生の主体的参加を求める演習方式がとられている。博士課程前期・修士課程においては、演習を中心に講義、文献購読から成る授業形態をとり、修士論文作成に向けた指導が行われている。博士課程後期においては、「特論」と「特別研究」から成る授業形態によって、博士論文作成の完成に向けた指導が行われている。	既出1-LD4平成28年度大学院便覧
中項目(2)	本研究科では、全開講科目について、全学共通のシラバスガイドラインに沿って、シラバスを作成し、学務委員と各専攻主任がその内容を客観的にチェックしている。また、研究科全体として、シラバスの内容と実際の授業内容との整合性を図ることを各教員が心がけている。	4-3-LD1 平成28年度大学院シラバス(授業計画書)作成について
中項目(3)	各教員は、シラバスに明記した成績評価方法・基準に従って、適正に成績評価を行っている。	4-3-LD2 平成28年度大学院人文科学研究科シラバス
中項目(4)	授業内容及び方法の改善を図るための検討は、専攻毎には行われているが、研究科としてその組織的研修・研究は行われていない。	

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 法学研究科

### 大項目（評価の基準）： 4-3. 教育内容・方法・成果（教育方法）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	研究指導計画にもとづく研究指導・学位論文作成指導
中項目(2)	(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実、授業内容・方法とシラバスの整合性
中項目(3)	(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）、単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性、既習得単位認定の適切性
中項目(4)	(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容及び方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	現状を維持する。	研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導が行われていること。
中項目(2)	現状を維持する。	シラバスに沿った研究指導や授業が行われていること。
中項目(3)	現状を維持する。	シラバスに評価方法・評価基準が明記されており、それに基づいて厳格な成績評価が行われていること。
中項目(4)	大学院FD推進会議を通じて第3回FDアンケートの実施を目指す。	第3回FDアンケートの実施。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	各教員によって研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導が行われている。	4-3-JD-1平成27年度大学院入学試験要項；4-3-JD-2平成28年度大学院入試要項；4-3-JD-3平成29年度大学院入学試験要項
中項目(2)	各教員によって研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導が行われている。	既出4-3-JD-1；4-3-JD-2；4-3-JD-3
中項目(3)	シラバスに評価方法・評価基準が明記されており、各教員によって、厳格な成績評価が実施されている。	4-3-JD-4HP大学院シラバス
中項目(4)	修了アンケートが実施された。	4-3-JD-5通常委員会議事資料（平成28年4月19日）13頁 - 14頁

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 経済学研究科

### 大項目（評価の基準）： 4-3. 教育内容・方法・成果（教育方法）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導
中項目(2)	(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容に充実、授業内容・方法とシラバスの整合性
中項目(3)	(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価、単位制度の趣旨に基づく単位設定の適切性、既修単位認定の適切性
中項目(4)	(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	教育方法および学習指導方法の適切性について、FD委員会や通常委員会にてさらに検討を進める。	通常委員会議事録等に検討結果を残す。
中項目(2)	授業評価アンケート等を利用し、シラバスに基づいた授業が行われていることの確認を徹底する。	通常委員会議事録等に検討結果を残す。
中項目(3)	成績評価と単位認定の適切性について、FD委員会や通常委員会にてさらに検討を進める。	通常委員会議事録等に検討結果を残す。
中項目(4)	FD委員会や通常委員会において、教育成果に関する定期的な検証を行うとともに、教育課程や教育内容・方法のさらなる改善を進める上で必要な諸施策について検討を行う。	通常委員会議事録等に検討結果を残す。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	学位論文提出に関する申し合わせをより明確な内容にすることによって、研究科の目指す研究指導の方向性を確認している。	既出4-1-ED1, 後期小委員会議事録(7月15日)
中項目(2)	シラバスについては、分野別の世話人がシラバスの内容や授業内容について確認を行っている。	既出3-ED3, 通常委員会議事録(1月26日)、4-3-ED1、通常委員会会議資料(2月22日、69項)
中項目(3)	成績評価については、原則的に試験による、とした大学院規定を守って、シラバスにもその内容を反映している。	既出1-ED1、福岡大学大学院便覧、4-3-ED2、平成28年経済学研究科シラバス
中項目(4)	FD委員会のなかで、授業内容の改善を図るための方策を検討している。	既出3-ED2, FD委員会開催通知

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 商学研究科

### 大項目（評価の基準）： 4-3. 教育内容・方法・成果（教育方法）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	研究指導および学位論文作成指導への組織的対応
中項目(2)	(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成とその内容の充実、公表
中項目(3)	(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	シラバスで明示化された基準・方法による適切な成績評価
中項目(4)	(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	教育改善 (FD) に向けての組織的な対応

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	博士課程前期および後期における学位論文指導の充実	学位論文指導
中項目(2)	学生のより適切な教育のためのシラバスの充実	シラバスの充実
中項目(3)	より適切かつ厳格な成績評価	成績評価
中項目(4)	大学院FD推進委員会をつうじて、引き続きFDアンケートを実施していくこと。	FDアンケート実施

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	博士課程前期においては、修士論文中間発表会及び修士論文発表会で主査及び副査やその他商学研究科教員から、報告及び質疑、プレゼンテーションの方法も含めて指導し、より質の高い修士論文の作成を目指している。博士課程後期においては、期間内に博士論文が作成できるように主査を通じて指導している。学位の申請を希望する者から申し出があり、提出された博士申請論文については論文審査事前検討委員会を設置し、当該論文についてきめ細かい指導を行っている。	既出 1-CD2 2016年2月通常委員会資料、既出 1-CD3 2016年6月通常委員会資料、既出 1-CD4 2016年9月通常委員会資料、既出 1-CD5 2016年10月通常委員会資料。
中項目(2)	商学研究科では、学生のより適切な教育のためにシラバスを充実させるべく、シラバスを公表する前に学務委員が委員作成の分を除くすべてのシラバスについて点検を行っている。学務委員が作成したシラバスについては、研究科長が点検している。	既出 1-CD2 2016年2月通常委員会資料。
中項目(3)	成績評価については、担当教員がより適切かつ厳格な成績評価になるよう対応している。	既出 1-CD2 2016年2月通常委員会資料。
中項目(4)	学生へのFDアンケートについては、商学研究科単独では実施が難しいので、大学院FD推進委員会を通じて引き続きFDアンケートを実施していく。	

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 理学研究科

### 大項目（評価の基準）： 4-3. 教育内容・方法・成果（教育方法）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導、教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用
中項目(2)	(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実
中項目(3)	(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）、単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性
中項目(4)	(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	現状を維持する。	博士課程前期の主要科目と後期の研究指導科目に基づいた学生の指導を行っている。
中項目(2)	現状を維持する。	学生が常に閲覧可能なWebシラバスに、授業内容と計画、到達目標、成績評価基準および方法、履修上の注意および準備学習が記載されている。
中項目(3)	現状を維持する。	Webシラバスに成績評価の方法および基準が明記され、修士論文発表会と博士学位申請論文公聴会が公開されている。
中項目(4)	現状を維持する。	大学院FD委員会からFD活動に関する報告書が提出されている。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	博士課程前期の主要科目と後期の研究指導科目に基づいた学生の指導が行われている。研究指導のスケジュールについて、学位取得のためのガイドラインに年次計画を明示している。また詳細なスケジュールについて、入学時及び進学時のガイダンスで配布している。（既出1-SD1 293頁～、321頁～ 4-3-SD1、4-3-SD2）	既出1-SD1 平成28年度大学院便覧 4-3-SD1 Webシラバス 4-3-SD2 大学院理学研究科教務ガイダンス資料
中項目(2)	学生が常に閲覧可能なWebシラバスに、授業内容と計画、到達目標、成績評価基準および方法、履修上の注意および準備学習が記載されている。また応用数学専攻も含め、「講究I」および「講究II」は、教育内容を明確にするため、シラバスにおいてそれぞれ30回の内容を区別して記述することとした。（既出4-3-SD1、既出4-2-SD1）	既出4-3-SD1 Webシラバス 既出4-2-SD1 理学研究科通常委員会議事録・資料（平成28年9月27日）
中項目(3)	Webシラバスに成績評価の方法および基準が明記され、修士論文発表会と博士学位申請論文公聴会が公開されている。（既出4-3-SD1）	既出4-3-SD1 Webシラバス
中項目(4)	教育FDのための組織的活動はなされていない。	

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 工学研究科

### 大項目（評価の基準）： 4-3. 教育内容・方法・成果（教育方法）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実
中項目(2)	(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実、授業内容・方法とシラバスの整合性
中項目(3)	(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）
中項目(4)	(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	年次ごとの履修科目の明確化	各専攻での履修ガイドラインの作成
中項目(2)	シラバスの記載内容を改善し充実させる。	授業アンケートの実施
中項目(3)	厳格な成績評価を実施する。	授業アンケートの実施
中項目(4)	工学研究科全体で教育内容、教育成果を検討する。	教育内容を検討する委員会設置と報告書公表

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	各専攻ごとに履修することが望ましい科目指導は行っている。（例：コミュニケーションスキル）科目履修は指導教授の指導で決まっている場合が多く、研究科全体での推奨修得単位数の議論には至っていない。	
中項目(2)	シラバス記載内容は、担当教員が作成後、専攻主任、学務委員、研究科長が確認を行う仕組みを作り、それに従って改善されている。（4-3-TD1）	4-3-TD1 大学院シラバス（授業計画書）作成に伴う科目別入稿内容の確認作業について（お願い）、工学研究科シラバス確認作業報告書
中項目(3)	研究指導教員及び科目担当教員が、シラバスの評価の基準に従って採点を行い、成績評価を実施している。成績評価に関して学生からの質問はあるものの、厳格に成績評価が行われている。（4-3-TD2）	4-3-TD2 福岡大学HP電子シラバス ( <a href="https://acex.jsysneo.fukuokau.ac.jp/kyogaku/syllabus/syllabus/public_html/index.php">https://acex.jsysneo.fukuokau.ac.jp/kyogaku/syllabus/syllabus/public_html/index.php</a> )
中項目(4)	工学研究科に教育内容検討会議を組織してるが、教育内容等についての議論には至っていない。	

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 医学研究科

### 大項目（評価の基準）： 4-3. 教育内容・方法・成果（教育方法）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院）
中項目(2)	(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実、授業内容・方法とシラバスの整合性
中項目(3)	(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価、単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性、既修得単位の認定の適切性
中項目(4)	(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を博るための組織的研修・研究の実施

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	指導教員・補助指導教員による教育体制のより有効的運用	シラバス再編と平行した担当教員割り当ての改善
中項目(2)	シラバスの実質化	シラバスの再編
中項目(3)	授業評価方法の改善	中間発表会、アンケート実施
中項目(4)	教育効果検証方法の改善	FD活動の活発化

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	博士課程では平成27年度より施行中の改正カリキュラムに従い、共通科目、専門科目への適切な指導教員・指導補助教員の配置を行っている。（既出 1-MD1） また、若手教員の補助指導員資格に関しても、積極的に申請を行うよう毎年2回定期的に周知している。（4.3-MD1） 修士課程では学生1人に論文指導補助教員1名を論文指導に当てていたが、今年度より論文指導補助教員を2名までに増やし、支援を厚くした。（4.3-MD2）	既出 1-MD1 平成28年度大学院医学研究科博士課程シラバス 4.3-MD1 医学研究科博士課程小委員会議事録（平成28年7月13日分） 4.3-MD2 平成27年度第11回医学研究科看護学専攻修士課程専攻会議議事録
中項目(2)	博士課程ではコースワーク・リサーチワークの実施がより効率的に行うためのカリキュラム改正を行ったことにより、これと整合性のある授業が可能となった。（既出 1-MD1） 修士課程では、高度専門看護師（クリティカルケア）コースの申請に伴い、従来の論文コースのカリキュラムとシラバスの見直しを行った。	既出 1-MD1 平成28年度大学院医学研究科博士課程シラバス
中項目(3)	博士課程では平成27年度2年次在籍の大学院生を対象に、平成28年2月15日、18日の2日間、「中間発表会」を実施した。（4.3-MD3）平成27年度学位取得者を対象とした出口でのアンケートも平成26年度に引き続いて実施した。（4.3-MD4） 修士課程では、フィードバックに役立てるため授業評価アンケートに加え、新たに課程修了時のアンケートを導入した。（4.3-MD5）	4.3-MD3 平成27年度大学院医学研究科博士課程中間発表会報告書 4.3-MD4 医学研究科博士課程修了者等へのアンケート 4.3-MD5 平成27年度第10回医学研究科看護学専攻修士課程専攻会議議事録及び添付資料
中項目(4)	博士課程では研究倫理関連のFDセミナーを開催した。（既出1-MD5）新専門医制度や研究不正防止をテーマとしたセミナーの実施も検討中である。（既出 1-MD8） 修士課程では、独自に開催はしていないが、学部での修士課程にも適用できる教育改善に関するFDに参加した。（既出 3-MD5）	既出 1-MD5 福岡大学大学院医学研究科FDセミナー資料 既出 1-MD8 博士課程改革小委員会議事録(平成28年5月25日、8月31日) 既出 3-MD5 福岡大学医学部看護学科FD活動報告書第3号

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 薬学研究科

### 大項目（評価の基準）： 4-3. 教育内容・方法・成果（教育方法）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 学習指導の充実 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（修・博士）
中項目(2)	(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
中項目(3)	(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性
中項目(4)	(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研究の実施

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	毎年自己評価し、その結果を公表している	Webで公開
中項目(2)	シラバスと実際の授業、実習に乖離がない。	評価方法と基準
中項目(3)	公正厳格に成績評価されている。	エビデンスの収集
中項目(4)	学生による授業評価の方法論が構築されている。	アンケートの匿名性と効果

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	毎年自己評価を実施し、その結果をWeb上で公表している。	4-3-P1 平成27年度自己点検・評価報告書
中項目(2)	シラバスに沿って授業や実習が行われている。	既出1-P6 Webシラバス(平成28年度)
中項目(3)	エビデンスの収集も十分に行われており、成績についても公正に評価されている。	既出1-P4 福岡大学薬学研究科HP 既出1-P6 Webシラバス(平成28年度)
中項目(4)	修了時に実施したが、各学年では実施していない。	既出3-P5 通常委員会議事録(平成28年4月22日開催)

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## スポーツ健康科学研究科

### 大項目（評価の基準）： 4-3. 教育内容・方法・成果（教育方法）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用，履修科目登録の上限設定、学習指導の充実，学生の主体的参加を促す授業方法，研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（大学院）
中項目(2)	(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実，授業内容・方法とシラバスとの整合性
中項目(3)	(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示），単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性，既修得単位認定の適切性
中項目(4)	(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	さらに適切性を高めるように努める。	通常委員会で審議・了承し，検証結果を議事録に残す。
中項目(2)	研究と表裏一体である大学院の特別研究ではシラバスに基づいた授業を行うのは難しいが，非専修科目については鋭意努力する。	通常委員会で審議・了承し，検証結果を議事録に残す。
中項目(3)	現在も適切に行われており，現状を維持するように努める。	通常委員会で審議・了承し，検証結果を議事録に残す。
中項目(4)	FD小委員会による学生を対象にした授業や指導内容についての調査を継続して行う。	通常委員会で審議・了承し，検証結果を議事録に残す。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	講義形式の特修科目，演習形式の特講や特別研究，スポーツ医学部門を中心とした実習など教育目標に応じて適切に配置されている。しかし、文系をはじめ理系においても実験を方法論としない専修もあるため実験は配置されていない。また、履修科目登録の上限は特に定めていないが、今後も上限を定める予定はない。 主体的参加が前提になっている科目としては「学外研究及び研修Ⅰ・Ⅱ」があり、学外でのフィールドワークやコーチングの現場を実体験することを主目的としている。この科目では実習場所を学生が独自に定めることになっている。今後もこの科目の履修者拡大を図る予定である。(1-GD-1 189～196頁)	既出1-GD1「大学院便覧」
中項目(2)	年度末に次年度の全科目のシラバスが作成され，学務委員が中心となりその内容をチェックし，内容の充実のために適切なアドバイスを行うなど適切に行われている。作成されたシラバスと実際の授業内容との整合性は年度末に調査が行われ，予定通り行われなかった理由についても各自が申告することになっている。調査結果は通常委員会に報告される。	既出4-GD3「福岡大学大学院シラバス」
中項目(3)	シラバスに成績評価法や単位認定の基準が明示されており，これに基づき適切に評価が行われている。また，すべての成績評価結果は年度末の通常委員会において審議され，決定されるなど成績評価も適切に行われている。	既出4-GD3「福岡大学大学院シラバス」
中項目(4)	研究科長，大学院委員，学務委員からなるFD小委員会が毎年12月に学生を対象に，授業や指導内容についての満足度を調査し，結果を通常委員会で公表している。これをもとに各教員が次年度の教育内容・方法の改善に役立っている。この活動は今後も継続して実施する予定である。しかし，教授内容を向上させるための組織的な研修などは行われていない。	4-GD4「平成27年度スポーツ健康科学研究科FDアンケート調査（平成28年1月6日通常委員会で結果報告）」

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 法科大学院

### 大項目（評価の基準）： 4-3. 教育内容・方法・成果（教育方法）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実
中項目(2)	(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実
中項目(3)	(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）
中項目(4)	(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容及び方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	現在の履修科目登録の上限設定、学習指導状況を維持、継続する。	現時点の水準が維持されているか否か。
中項目(2)	現在のシラバスの作成と内容充実の現状を維持、継続する。	現時点の水準が維持されているか否か。
中項目(3)	現在の厳格な成績評価の現状を維持、継続する。	現時点の水準が維持されているか否か。
中項目(4)	現時点における授業の内容及び方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施を維持し、さらに発展させる。	現時点の水準が維持されており、さらに新たな研修等が実施されているか否か。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	満足すべき状況にある。	
中項目(2)	満足すべき状況にある。	
中項目(3)	満足すべき状況にある。	
中項目(4)	満足すべき状況にある。	

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 人文学部

### 大項目（評価の基準）： 4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用
中項目(2)	(2) 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。
評価の視点	学位授与基準、学位授与手続きの適切性

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	教育成果の測定が可能な状態	教育成果を測る指標の開発
中項目(2)	現状と同様、適切な学位授与を行う	厳格な成績評価の実施

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	ディプロマ・ポリシーの見直しに伴って、教育目標を検討している段階である。具体的な成果にはまだつながっていないが、教育目標が確定すれば、その次の段階として教育成果を測定する指標の開発を行う予定である。	
中項目(2)	これまでと同様の学位授与を今年度も行う予定である。ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの見直しによって、成績評価の適切性を検討していく予定である。	

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 法学部

### 大項目（評価の基準）： 4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用、学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）
中項目(2)	(2) 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。
評価の視点	学位授与基準、学位授与手続きの適切性

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	今後も、授業アンケートの検証・改善を定期的に行う。	授業アンケートの適切な改善
中項目(2)	今後も、全学的な学位授与基準に基づいて学位手続きを適切に進める。	学位授与基準・手続きの適切性

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	前期及び後期に各1回、授業アンケートを実施している（4-4-J1）。また、平成27年3月及び平成28年3月卒業生に対して卒業生アンケートを実施し（4-4-J2、4-4-J3）、平成27年3月卒業生分についてはその結果につき分析を行った（4-4-J4）。	4-4-J1 授業アンケート用紙、4-4-J2 平成27年3月卒業生アンケート用紙、4-4-J3 平成28年3月卒業生アンケート用紙、4-4-J4 教授会資料平成27年12月8日（卒業生アンケート結果の報告書）
中項目(2)	学則第38条及び学科履修規程に定めた要件を満たした卒業予定者に対して、教授会の議を経て適切に学位を授与している（4-4-J5～7）。	4-4-J5～J7 教授会資料（平成28年2月19日、同年3月11日、同年9月1日）

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 経済学部

### 大項目（評価の基準）： 4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	①卒業後の評価（卒業生評価）
中項目(2)	(2) 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。
評価の視点	①学位授与基準、学位授与手続きの適切性

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	卒業生アンケートは引き続き実施する。さらに教育成果の検証方法を検討する。	卒業生アンケート集計結果、FD委員会議事録に検証結果が残る。
中項目(2)	現状維持に努める。	教授会議事録に審議結果が残る。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	平成28年3月にも卒業生アンケートを実施し、教育成果の検証を行うこととしている。	既出 1-E4 平成28年10月14日経済学部教育推進委員会議事録
中項目(2)	学位の授与（卒業・修了認定）は、教授会の議を経て適切に行っている。	4-4-E1 平成28年2月19日経済学部教授会議事録 既出 1-E6 平成28年3月11日経済学部教授会議事録

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 商学部

### 大項目（評価の基準）： 4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習成果を測定するための評価指数の開発とその適用、学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)
中項目(2)	(2) 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。
評価の視点	学位授与基準、学位授与手続きの適切性、学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（院・専門職）

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	成績評価の度数分布表の開示を目指す。	成績評価の度数分布表
中項目(2)	商学部における論文ゼミナール登録者の内卒業論文を提出しない学生について、その原因と対策を検討するとともに、商学部第二部に論文ゼミナールを設置することの是非を検討する。	卒業論文を提出しない学生についての原因と対策および商学部第二部に論文ゼミナールを設置についての検討の実施

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	成績評価の度数分布表の開示（教授会構成員に対する開示）については、これを実施する旨および実施する際の詳細を決定し、今年度の後期の成績評価から実施することになった。	4C-14 教授会資料（平成28年3月11日）、8頁および既出4-C13教授会資料（平成28年12月21日）。
中項目(2)	論文ゼミナール等の昼間部ゼミ改革および第2部学生に対する昼間部の論文ゼミナール履修については、カリキュラム改正の審議改訂において検討が行われたが、結論には至らず継続審議となった。	4-C16教授会資料（平成27年12月16日）、28-29頁。

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 理学部

### 大項目（評価の基準）： 4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用、学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）。
中項目(2)	(2) 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。
評価の視点	学位授与基準、学位授与手続きの適切性。

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	ポートフォリオなど教育評価方法の検討	検討を実施する科目数。
中項目(2)	現状の単位に基づく学位授与法を維持	各年次の学生の単位修得状況と卒業、留年の相関。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	教職科目については、ポートフォリオ（教職履修カルテ）が導入されている。専門科目については、各科目のナンバリング及びカリキュラムマップの検討を始めようとしているところである。開講期間内評価科目の導入についての検討。(4-4-S1、4-4-S2)	4-4-S1 平成28年度教職課程履修の手引き 4-4-S2 理学部教授会議事録・資料（平成28年10月25日）
中項目(2)	シラバスに示された成績評価基準で単位が与えられる。さらに、単位に基づく学位授与が維持されている。(既出4-2-S1、4-4-S3)	既出4-2-S1 平成28年度シラバス(理学部) 4-4-S3 理学部教授会議事録・資料（平成27年9月8日、平成28年2月19日、3月11日）

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 工学部

### 大項目 (評価の基準) 4-4. 教育内容・方法・成果 (成果)

#### I. 中項目 (点検・評価項目)・評価の視点

中項目 (1)	(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習効果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価 (就職先の評価、卒業生評価)
中項目 (2)	(2) 学位授与 (卒業・修了認定) は適切に行われているか。
評価の視点	学位授与基準、学位授与手続きの適切性

#### II. 到達目標・指標 (平成30年度までの到達目標及び指標) (Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目 (1)	JABEEまたはJABEEの基準に準拠した厳格的な教育を堅持し、修学指導を強化するなど、教育効果の向上に努める。	JABEE関連資料。修学指導関連資料。進級率・就職率。
中項目 (2)	学位授与基準、学位授与手続きの適切性について定期的に検証・改善する	検証・改善は行われたかどうか

#### III. 到達目標の進捗状況 (Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目 (1)	カリキュラムに基づき、教育課程及び教育活動を実施している。	既出4-3-T4、4-4-T1 時間割、授業アンケートに関する資料
中項目 (2)	関連規定に沿って適切に行われている。	4-4-T2 卒業判定に関する教授会資料等。

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 医学部医学科

### 大項目（評価の基準）： 4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	医学科は、全国の医療機関で臨床医として高い評価を得ている。看護学科は、学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用。学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）
中項目(2)	(2) 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。
評価の視点	医学科では卒業判定は適切に行われている。看護学科では学位授与基準、学位授与手続きの適切性、学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（院・専門職）

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	全国の医療機関で臨床医、看護師として高い評価を得ている。	学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）を指標とする。
中項目(2)	毎年の医師国家試験では、100人以上の医師を誕生させており、全国の医療機関で患者に寄り添う良き臨床医として、高い評価を得ているが、これを継続する。	病棟修練を国際基準に合わせ、国家試験合格率を上向かせる。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	医学科では、福岡大学出身の医師は、全国の医療機関で良き臨床医としての高い評価を得て、全国で活躍しており、我が国の医療体制の維持、発展に貢献している。また、研究者や医療行政で活躍する人材も輩出している。成果として、恒常的な教育内容の検証と改革により、教育内容がマンネリズムに陥ることなく、常に医学の進歩や社会情勢を踏まえた教育内容の提示が可能な状況である。また、時代に即応できる医師の養成に貢献していると考えられる。さらに、本医学部一般入試の競争率は、極めて高く、関東、関西方面からの入学応募も多数あることから、本大学医学部の教育方針に対する社会の一定の評価の現れと考えられる	医学部ホームページ、医学部教授会資料、医学教育検討委員会資料等。
中項目(2)	医学科は、成果として、毎年の医師国家試験では、合格率に関しては最上位の成績ではないが、毎年、100人以上の医師を誕生させており、一定の成果と評価を得ている。福岡大学出身の医師は、全国の医療機関で患者に寄り添う良き臨床医として、高い評価を得ており、我が国の医療体制の維持、発展に貢献している	医学部ホームページ、医学部教授会資料、医学教育検討委員会資料等。

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 医学部看護学科

### 大項目（評価の基準）： 4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	医学科は、全国の医療機関で臨床医として高い評価を得ている。看護学科は、学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用。学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）
中項目(2)	(2) 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。
評価の視点	医学科では卒業判定は適切に行われている。看護学科では学位授与基準、学位授与手続きの適切性、学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（院・専門職）

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）（Plan: 計画）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	全国の医療機関で臨床医、看護師として高い評価を得ている。	学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）を指標とする。
中項目(2)	毎年の医師国家試験では、100人以上の医師を誕生させており、全国の医療機関で患者に寄り添う良き臨床医として、高い評価を得ているが、これを継続する。看護学科も毎年100人程度の卒業生を輩出し、入職した医療施設・学校等から高い評価を受けており、これを継続する。	病棟修練を国際基準に合わせ、国家試験合格率を上向かせる。看護学科も、看護師・保健師国家試験合格率の100%維持を目指す。

#### III. 到達目標の進捗状況（Do: 実行）

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	看護学科では、看護基礎教育のカリキュラムは講義、演習、実習が体系的に学べるように配当している。最終的な学習成果は臨地実習の評価に依拠している。8つの専門領域（基礎、成人、老年、精神、母性、小児、在宅、地域）の実習評価は、知識・理解、思考・判断、関心・意欲、技能・表現の4つの観点で評価指標を作成し評価している。それぞれの実習後に学生の自己評価をもとに面接し、学習成果の評価を行っている。成績不良者に対しては、実習目標を達成できるようフォローアップしている。4年間の看護基礎教育を評価する目的で、文部科学省の「大学卒業時の到達目標」をもとに卒業時アンケートを行っている。調査結果はFD委員会が集約して看護学科教授会議で報告し、教育上の課題を共有している。平成27年度までに605名が本学を卒業し、大学病院や地域の医療施設、保健福祉センター、養護教諭として活躍している。卒業生を受け入れた施設や医療機関から高い評価を得ている。	既出1-MN2 平成28年度看護学科学修ガイド
中項目(2)	看護学科の学士課程は、修業年限の3月までに、卒業に必要な所定の単位を修得した学生に対し、医学部看護学科教授会で卒業の認定を行う。	既出1-MN2 平成28年度看護学科学修ガイド

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 薬学部

### 大項目（評価の基準）： 4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用
中項目(2)	(2) 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。
評価の視点	学位授与の基準と手続きの適切性

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）（Plan: 計画）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	ルーブリック評価票の導入を検討する。	ルーブリック評価用配点票の作成
中項目(2)	ディプロマ・ポリシーに沿った学位授与を実施する。	ディプロマ・ポリシー、学修ガイド

#### III. 到達目標の進捗状況（Do: 実行）

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	本学部の理念・目的に沿った資質の高い医療人（病院・薬局薬剤師）を輩出しており、評価できる。一方、研究マインドを養成する教育を実施しているが、薬学部6年制になり教育・研究者を目指して大学院へ進学する学生が減少しているため、学生の教育・研究に対する意識を高める教育の実施が望まれる。実習などの学習成果を測定するためのルーブリック評価指標を策定し、厳正に評価する必要がある。	4-4-P1 平成28年度第6回教授会資料 既出1-P6 就職先資料
中項目(2)	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を明確に設定し、学位授与の手続きは適切に行われている。	既出3-P4 三つのポリシー（ディプロマ・ポリシー）

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## スポーツ科学部

### 大項目（評価の基準）： 4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	・ 学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 ・ 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）
中項目(2)	(2) 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。
評価の視点	学位授与基準、学位授与手続きの適切性、

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	・ 学生の学習成果を測定するための評価指標が開発され適用されている。	・ シラバスの中に明記されていること
中項目(2)	・ 学位授与基準、学位授与の手続きが適切に行われている。	・ 現状の通り学位授与基準が明示されていること

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	<p>・ 教育マネジメントサイクルの一環として、授業アンケートを行い、教育効果の測定、教育目標の達成度を、教員個々が確認して、授業改善を行っている。また、授業中に行なわれるミニツツペーパーやレポートなどによって、学生の理解度を確認している。しかし、学習成果を測定する評価指標の開発は、平成28年度も行われていない。</p> <p>・ 平成27年度の就職状況は、教育関係11.4%、公務員11.4%、サービス業26.3%、卸売・小売業20.0%、大学院進学5.9%に就職している。就職先からの評価は明らかになっていないが、学部ガイドの卒業生メッセージや年2回行われている「先輩と語る」という行事において、卒業生の活躍や評価が述べられている(4-1-G2 16～17頁)。</p>	<p>既出3-G10「平成28年度教授会（9月30日）」別添2</p> <p>既出4-1-G2「2017年度スポーツ科学部ガイド」</p> <p>既出1-G6「平成28年度スポーツ科学部新入生懇談会」</p> <p>4-4-G1「平成28年度第47回スポーツ科学部 学部祭実施要項」</p>
中項目(2)	<p>・ 学位授与基準、学位授与手続きは福岡大学学則第4節「学習修了の認定及び卒業」、「学科履修規定」および「成績考査規定」に明示され、適切に行われている。(24、130、139、197～214頁)。</p>	既出1-G1「平成28年度学修ガイドスポーツ科学部」

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 人文科学研究科

### 大項目（評価の基準）： 4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用、学生の自己評価、卒業後の評価
中項目(2)	(2) 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。
評価の視点	学位授与基準、学位授与手続きの適切性

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	各専攻前期課程修了者の7割以上が関係専門職就職(非常勤を含む)もしくは後期課程への進学する。	関係専門職資格取得者及び就職者数、後期課程進学者数
中項目(2)	課程博士の学位授与を増やす。	毎年、専攻毎に1名以上の課程学位(博士)を授与する。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	教育目標に沿った成果は、直接的には学位論文の提出とその質であり、間接的には修了後の進路から判断できる。各専攻とも修士論文の要旨は、各専攻の研究(学会)誌に掲載され、公開している。修了後の進路については、各専攻とも目標に掲げる高度専門職業人として、本学教職員や小学・中学・高校・大学教員に採用されており、また専門職資格(臨床心理士)取得後、医療機関の心理士やスクールカウンセラーに採用されている。	4-4-LD1 七隈史学会会報 4-4-LD2 福岡大学日本語日本文学 4-4-LD3 福岡大学英語学英米文学論集 4-4-LD4 平成27年度福岡大学大学院人文科学研究科修了生・満期退学者の進路状況
中項目(2)	専攻毎の学位授与基準、並びに学位授与手続きに関しては、「修士・博士学位取得のためのガイドライン」に明記しており、それに沿って、学位授与が行われている。学位(論文審査)に際しては、各専攻とも修士には、主査、副査による審査と口頭発表、博士には、主査、副査による審査と一般公开发表(公聴会)を義務付け、それぞれに定められた審査基準に基づいて評価している。	既出4-1-LD1 福岡大学大学院学則 既出4-1-LD2 福岡大学大学院学位規程 4-4-LD5 修士学位取得のためのガイドライン 4-4-LD6 博士学位取得のためのガイドライン

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 法学研究科

### 大項目（評価の基準）： 4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用
中項目(2)	(2) 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。
評価の視点	学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	現状を維持する。	学位論文の提出状況とその質の維持。修了者が専門職業人としての進路を確保すること。
中項目(2)	現状を維持する。	厳格な審査基準に基づく適切な学位授与の実施。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	各教員がシラバスにしたがって、論文指導を適切に実施することによって、8名中7名が無事修了し、学位を取得している。	4-4-JD-1通常委員会議事資料(平成28年2月23日) 1頁 - 3頁
中項目(2)	各教員がシラバスにしたがって、論文指導を適切に実施することによって、必要な単位を取得し、かつ修士論文を提出したうえで、8名中7名が無事修了し、学位を取得している。	既出4-4-JD-1

# 平成28年度 自己点検・評価シート

経済学研究科

大項目（評価の基準）： 4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

## I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	教育目的に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用、学生の自己評価、卒業後の評価
中項目(2)	学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。
評価の視点	学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策

## II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）（Plan: 計画）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	授業評価アンケートの結果を分析し、より正しく学生の学習成果を測定できる評価指標の開発に努める。	通常委員会議事録等に検討結果を残す。
中項目(2)	今後も引き続き、学位審査および修了認定の客観性・厳格性を維持できるよう、確認や検証に努める。	通常委員会議事録等に検討結果を残す。

## III. 到達目標の進捗状況（Do: 実行）

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	後期小委員会を中心に、卒業後の学習成果評価について、議論している。	4-4-ED1, 後期小委員会議事録（11月10日）
中項目(2)	学位審査および修了認定は、公正かつ客観的な基準のもと、行われている。	既出1-ED1, 福岡大学大学院便覧（248項、259-62項）

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 商学研究科

### 大項目（評価の基準）： 4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	博士課程前期での入学者の標準年限での修了率および博士課程後期での課程博士論文審査合格者数
中項目(2)	(2) 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。
評価の視点	学位授与要件の明示化、組織的審査体制の構築の適切性

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	入学者の標準年限での修了者の割合を100%に近づける	修了者の割合
中項目(2)	学位授与の要件および授与のプロセスを学生にいっそう周知するようにする	学位授与の要件および授与のプロセスの周知

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	平成25年度の博士課程前期入学者の標準年限での修了者（平成26年度修了者）の割合は入学者23人に対して20人であった。入学者23人中2人は平成27年度に修了判定を受けた。平成26年度の博士課程前期入学者の標準年限での修了者（平成27年度修了者）の割合は入学者13人に対して12人であった。平成28年度は、平成26年度入学者13人中1人を修了判定に導くとともに、平成27年度入学者の標準年限での修了率を100%に近づけたい。また、平成24年度博士課程後期入学者1人を平成28年度における課程博士論文審査において合格と判定した。平成22年度の社会人博士課程後期入学者1人については、2回の論文審査事前検討委員会を通じて指導し、本審査に入ることにした。	既出 1-CD2 2016年2月通常委員会資料、既出 1-CD3 2016年6月通常委員会資料、既出 1-CD4 2016年9月通常委員会資料、既出 1-CD8 2016年12月通常委員会資料。
中項目(2)	学位授与の要件および授与のプロセスは、新入生ガイダンスで周知するようにしているが、その他大学院便覧にも掲載している。	既出 1-CD2 2016年2月通常委員会資料、既出 1-CD6 大学院便覧。

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 理学研究科

### 大項目（評価の基準）： 4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用
中項目(2)	(2) 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。
評価の視点	学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	現状を維持する。	副指導教員制度が存在し、修士論文研究発表会と博士学位申請論文公聴会が公開されている。
中項目(2)	現状を維持する。	修士論文と博士学位申請論文の副査が2名以上で、修士論文研究発表会と博士学位申請論文公聴会が公開され、博士学位申請には具体的な指標がある。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	副指導教員制度が存在し、修士論文研究発表会と博士学位申請論文公聴会が公開されている。学位授与方針に関し、理学研究科応用物理学専攻博士課程前期を除く各専攻の博士課程前期および後期については、ディプロマ・ポリシーにおいて、課程修了にあたって修得しておくべき学習成果を明示した。（既出3-SD9、既出4-1-SD1）	既出3-SD9 福岡大学理学部・理学研究科年報2015 既出4-1-SD1 理学研究科通常委員会議事録・資料（平成28年1月26日）
中項目(2)	修士論文と博士学位申請論文の副査が2名以上で、修士論文研究発表会と博士学位申請論文公聴会が公開され、博士学位申請には具体的な指標がある。（既出1-SD1、既出3-SD9、4-4-SD1）	既出1-SD1 平成28年度大学院便覧 既出3-SD9 福岡大学理学部・理学研究科年報2015 4-4-SD1 各専攻学位申請に関する申合せ

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 工学研究科

### 大項目（評価の基準）： 4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習効果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）
中項目(2)	(2) 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。
評価の視点	学位授与基準、学位授与手続きの適切性

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	大学院生の就職先での評価を調査し、教育目標に反映させる。	外部評価委員会を設け、報告結果を公表する。
中項目(2)	学際的な研究を推進する体制を作る。	博士課程後期で他研究科の教授が副研究指導教授として参画できる制度を作り、運用する。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	大学院卒業生の就職先での評価を調査する方法に関して、検討している。（既出1-TD1）	既出1-TD1 工学研究科自己点検・評価実施委員会（平成28年10月12日日開催）議事録
中項目(2)	学内での他研究科と連携した学際研究を推進する方策を検討している。（既出1-TD1）	既出1-TD1 工学研究科自己点検・評価実施委員会（平成28年10月12日日開催）議事録

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 医学研究科

### 大項目（評価の基準）： 4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の自己評価、卒業後の評価
中項目(2)	(2) 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。
評価の視点	学位授与基準、学位授与手続の適切性、学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（院）

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	指導教員による主査制度の改正（博士課程）	現行の主査制度に代わる制度の提案
中項目(2)	指導教員の増加、および大学院生の定数を満たすこと（修士課程）	指導教員資格審査基準の明確化による採用者数の増加、および高度実践看護師コースの導入

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	従来、医学研究科博士課程では研究指導者自身が主査を務めていたが、これを改め、研究指導者を除く指導教員及び補助指導教員の中から、主査1名、副査2名を選出することとなった。 (4. 4-MD1) 平成28年度4月より、医学研究科博士課程入学者及び論文博士申請者に適用されている。（既出4. 3-MD1） 修士課程では主査に主指導教員はなれない。学生の研究力の評価のために作成した論文を公開発表会で教員・学生の前で発表し、口頭試問では主査と副査による論文の評価が厳格に行われる。それによって学生は十分理解できた所、まだ不十分なところが理解できたと自己評価を行っている。卒業後には修士論文を各主要な国内、国際学会で発表しており、論文投稿を始めている。また修士論文テーマで文部省科学研究費若手Bの取得となった学生もいる。卒業後に大学教員、看護専門学校教員で活躍している学生が多い。	4. 4-MD1 医学研究科博士課程小委員会議事録（平成28年1月27日分） 既出 4. 3-MD1 医学研究科博士課程小委員会議事録（平成28年7月13日分）
中項目(2)	修士課程においては、教員の資格を明確にするため、新たに申し合わせ事項として教員資格審査基準を作成した。（既出 3-MD3）大学院有資格者数は増加したが、論文指導教員は微増にとどまった。入学者数はポスターやパンフレットの配布等のリクルート活動により徐々に増加している（28年度入学者3名、29年度受験予定者3名以上）。平成29年度より高度実践看護師コースが開設予定で学生数増加が見込まれる。	既出 3-MD3 平成27年度第5回医学研究科看護学専攻修士課程小委員会議事録及び添付資料

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 薬学研究科

### 大項目（評価の基準）： 4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）
中項目(2)	(2) 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。
評価の視点	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（修・博士）

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	教育成果に関して、修了後の評価方法が提案されている。	修了した学生の自己評価が行われている。
中項目(2)	学位授与の適切性が定期的に検証されている。	通常委員会の議題

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	学生の自己評価及び卒業後の自己評価については、学生が所属する研究室を通じて行うことを検討している。卒業後の就職先による評価（外部評価）については、現時点では、その評価方法を提案できていない。	
中項目(2)	学位授与の適切性を定期的に検証している。	既出1-P2 大学院便覧(平成28年度) 4-4-P1 薬学研究科：博士課程並びに論文博士の審査に必要な研究業績及び研究歴の設定についての申合せ

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## スポーツ健康科学研究科

### 大項目（評価の基準）： 4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用, 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）
中項目(2)	(2) 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。
評価の視点	学位授与基準・学位授与手続きの適切性, 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（大学院・専門職）

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	大学院では研究が主体であるため学部のような学習成果を測定することが難しいが、測定方法について検討する。	通常委員会で審議・了承し、検証結果を議事録に残す。
中項目(2)	現在も適切に行われており、現状を維持するように努める。	通常委員会で審議・了承し、検証結果を議事録に残す。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	博士課程前期の学生の学習成果を測定するため、毎年8月上旬に全大学院担当教員および博士課程前期の全学生の前で中間報告会を行っている。発表に対して出席者から質疑応答、および大学院担当教員から適宜アドバイスを受ける。また、2月には修士論文発表会が同様に行われ、大学院担当教員が各自40点満点で評価し、その平均値に基づき順位付けが行われている。最も高評価を受けた学生には研究科長賞が授与されてる。さらに、1月までに発表・公表した研究成果について調査が行われ、その成果は通常委員会において奨学金免除に関わるポイント表に基づき点数化され、公表される。しかし、学生の自己評価や就職先の評価はしていない。また、卒業生からの評価も実施していない。	4 - G D5 「平成28年度スポーツ健康科学研究科通常委員会議事録（2月24日）」
中項目(2)	博士の学位授与基準はスポーツ健康科学研究科博士学位申請取り扱い細則に明示されており、これに基づいて審査が適切に行われている。従来まで博士課程前期と後期での学位論文審査基準が同一であったので昨年度、両課程の特徴を踏まえ、独自の基準を作成した。研究計画書（中間審査）および最終論文の審査では投票が行われ、前者は1/2以上、後者は2/3以上の可が必要となっており、客観的な判断といえる。また、最終審査では積極的に外部の審査員を採用しており、審査の客観性を高める努力を行っている。今後もこの方針を継続していく予定である。（1-GD1 254頁・276～278頁）	既出1 - G D1 「大学院便覧」 既出4 - G D1 「福岡大学大学院スポーツ健康科学研究科博士学位申請取扱細則」 4 - G D6 「福岡大学大学院スポーツ健康科学研究科修士学位取扱細則」

# 平成28年度 自己点検・評価シート

法科大学院

大項目（評価の基準）： 4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

## I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用
中項目(2)	(2) 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。
評価の視点	学位授与基準、学位授与手続きの適切性

## II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	現在の学習成果測定の評価基準を維持、継続する。	現時点の評価基準の水準が維持されているか否か。
中項目(2)	現在の学位授与基準、学位授与手続を維持、継続する。	現時点の学位授与基準、学位授与手続の水準が維持されているか否か。

## III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	満足すべき状況にある。	
中項目(2)	満足すべき状況にある。	

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 人文学部

### 大項目（評価の基準）： 8. 研究活動

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 研究の質的向上に取り組んでいるか。
評価の視点	研究活動方針の適切性、研究活動成果・実績の状況

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	研究活動の活性化	科研費の応募件数、採択件数

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	指標となっている科研費の応募数は、人文学部全体で、平成25年度11件、26年度15件、27年度16件、28年度17件であり、このうち採用数は、25年度6（1982万円）26年度5（2157万円）、27年度10（2734万円）、28年度8（年額880万円）であり、採択率は各々、25年度54.55%、26年度33.3%、27年度62.5%、28年47.1%となっている。採用件数は福大全体の8%程度であり、理系学部（10-41%）に比すれば少ないものの、他の文系学部の1-2%に比べれば多い。各年ごとでは特徴は言いにくいところもあるが、全体的傾向としては、募集数、採択数ともに若干の増加傾向がみられると言えよう。	

## 法学部

### 大項目（評価の基準）： 8. 研究活動

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 研究の質的向上に取り組んでいるか。
評価の視点	①研究活動方針の適切性、②研究活動成果・実績の状況

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	科研費等外部資金を、毎年、継続的に獲得できるようにする。	科研費等外部資金の毎年の獲得。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	科学研究費補助金（以下「科研費」という。）など競争的研究資金の獲得状況に関しては、平成28年（2016）年度は、6件である(8-J1)。	8-J1 平成28年度科研費採択件数および採択額（学部別・種目別）一覧【新規+継続】（平成28年9月26日研究推進部委員会資料）

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 経済学部

### 大項目（評価の基準）： 8. 研究活動

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 研究の質的向上に取り組んでいるか。
評価の視点	①研究活動方針の適切性 ②研究活動成果・実績の状況

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	論文の質のさらなる向上。	本学部教員の学外論文の本数。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	質の高い論文の作成・公刊が活発に行われている。	既出 4-1-E1 福岡大学公式ウェブサイト 研究者情報

## 商学部

### 大項目（評価の基準）： 8. 研究活動

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 研究の質的向上に取り組んでいるか。
--------	-----------------------

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	<p>教員個々人は、研究成果を学内外の学術雑誌にあるいは著書にして定期的に発表することを目標とする。更に、学部内外に教員の教育研究活動を広報するために、できる限り全員が、活動報告を『福岡大学商学論叢』誌上で公開し、また『福岡大学の研究者情報』の更新の頻度を増やす。教員の研究活動を活性化するための学部レベルでの達成目標は以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国内外の学会・研究集会での講演を奨励する枠組みをつくる。</li> <li>・ 学部内での研究会を活発化させ、教員の研究交流を図る。</li> <li>・ 学部教育と大学院教育を有機的に連携させ、授業・業務の負担軽減を目指す。</li> <li>・ 学部独自の「個人研究費」を増額して、研究活動を促進させる。</li> <li>・ 研究時間の確保のためサバティカル制度等を検討する。</li> </ul>	<p>公表する教員の比率90%以上</p> <p>将来構想委員会で検討 将来構想委員会で検討 将来構想委員会で検討</p> <p>年25万円以上</p> <p>教授会及び将来構想委員会で検討</p>

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人研究予算について平成27年度に行った以下の改善を実施している。</li> </ul> <p>①予算枠を年間23万円から25万円に増額した。②単年度で処理していたものを、15万円まで次年度に繰り越しを認めた（最大40万円）。③海外への出張旅費の個人枠からの支出については、年間13.8万円から20万円へと上限を拡大した。④学会参加費への支出を年2万円まで認めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在外研究の終了後に商学部で報告会を実施している。</li> </ul>	<p>8-C1 教授会資料平成24年6月18日「予算委員会からの報告」</p> <p>8-C2 教授会議事録平成28年10月19日</p>

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 理学部

大項目（評価の基準）： 8. 研究活動

### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目 (1)	(1) 研究の質的向上に取り組んでいるか。
評価の視点	研究活動方針の適切性、研究活動成果・実績の状況

### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）（Plan：計画）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目 (1)	研究活動の質的な向上	学部全体の成果・実績の数と研究者ごとの実績。

### III. 到達目標の進捗状況（Do：実行）

	進捗状況	根拠資料
中項目 (1)	各研究者の研究活動方針の一部は、卒業論文・修士論文発表会などを通じて、各学科・専攻において研究内容について議論が行われている。また、理学部・理学研究科年報が発行され、各研究者の業績について相互に閲覧可能となっている。さらに、化学科においてはFD講演会「談話会」が、地球圏科学科では学科内3分野の「研究成果交流会」が行われ、学科内でその適切性について議論されている。（既出3-S3）大学院各専攻での研究活動成果・実績については、各学会における原著論文発行、著書、総説、国内および国際会議発表、公的研究費報告書などにおいて、多数の実績が報告されている。（既出3-S3）	既出3-S3 理学部・理学研究科年報2015

## 工学部

大項目（評価の基準）： 8. 研究活動

### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目 (1)	(1) 研究の質的向上に取り組んでいるか。
---------	-----------------------

### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）（Plan：計画）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>著書・学術論文・学会発表等の件数増加</li> <li>外部資金獲得件数および金額の増加</li> <li>学外機関との連携強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部資金獲得件数・金額→科研費採択件数</li> <li>受託・共同研究件数、委員会等委員就任件数→受託研究費・研究助成寄付金の件数・金額</li> </ul>

### III. 到達目標の進捗状況（Do：実行）

	進捗状況	根拠資料
中項目 (1)	平成27年度における研究業績は、著書・学術論文252件、学会発表等552件であり、学科により多少の差はあるが、教員（助教以上の教員数125名）1人当たりの件数は著書・学術論文が2.02件、学会発表等が4.42件となっている（8-T1 25-93頁）。また、平成27年度の科研費採択件数は新規・継続を含めて、基盤研究（B）2件、基盤研究（C）13件、若手研究（B）12件であり（8-T2 6-9頁）、その他の外部資金として、受託研究費51件・150,029,962円、研究助成寄付金51件・25,972,857円を獲得している（8-T3 13頁）。	8-T1 福岡大学工学集報, 第97号 8-T2 福岡大学学報, 第458号 8-T3 福岡大学学報, 第468号

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 医学部医学科

### 大項目（評価の基準）： 8. 研究活動

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 研究の質的向上に取り組んでいるか。
評価の視点	医学部医学科および看護学科、医学研究科は、研究の質的向上に取り組んでいる。研究活動方針の適切性。研究活動成果・実績の状況

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	質的向上は、最近の医学研究に関するガイドライン、利益相反マネジメントに沿ったかたちで、透明性を担保する方略の構築につとめる	質的向上の指標は、医学系研究に関するガイドライン、利益相反マネジメントをできる教員の確保になる。人的資源の確保。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	医学部医学科および看護学科、医学研究科、それに付随する基盤研究所、産官学連携研究機関等の教育研究組織は、福岡大学病院と筑紫病院の二つの教育病院をプラットフォームにしながら、恵まれた環境で研究活動が行われている。医学科の研究実績は、国際誌投稿、科学研究費、奨学寄付、共同研究、寄付連携講座講座等、外部資金獲得においては、学内トップである。各講座を横断する総合研究室、医学情報センター、電子顕微鏡センター、RIセンター、アニマルセンターが医学部内に設置されている。医学部内には、基盤研究研究所として、先端分子医学研究所、てんかん分子病態研究所、膝島研究所、心臓・血管研究所、再生医学研究所、産官学連携研究機関はライフ・イノベーション医学研究所として、新規臨床研究ガイドラインにそった人事の活性、倫理委員会への対応を行ってきた。	医学部ホームページ、医学部教授会資料、医学教育検討委員会資料等。

## 医学部看護学科

### 大項目（評価の基準）： 8. 研究活動

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 研究の質的向上に取り組んでいるか。
評価の視点	医学部医学科および看護学科、医学研究科は、研究の質的向上に取り組んでいる。研究活動方針の適切性。研究活動成果・実績の状況

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	質的向上は、最近の医学研究に関するガイドライン、利益相反マネジメントに沿ったかたちで、透明性を担保する方略の構築につとめる	質的向上の指標は、医学系研究に関するガイドライン、利益相反マネジメントをできる教員の確保になる。人的資源の確保。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	看護学科は、開設時より科学研究費補助金の申請を推進し80%以上を維持している。採択率は、平成21年度20%だったのが、平成24年度34.2%、平成25年度35%と徐々に上昇し、全国平均の30%を超えている。これは、組織的な取り組みがない中で、教員が自助努力し成し遂げたものである。平成25年度からは、外部資金獲得（科学研究費補助金研究、木村看護教育振興財団、安田記念医学財団、勇美財団研究助成など）に向けての学科独自の取り組みを、FD委員会、研究推進委員会を巻き込んで企画し、研究中の支援や成果の発表に向けて支援する活動方針を推進している。平成26年度からは学内資金獲得のために情報を教授会で報告し、外部資金獲得のための情報を学科内メールや掲示板、よく見る場所等に冊子を置くなど積極的に情報を流している。	8-MN1 福岡大学要覧2016 既出3-MN4 福岡大学医学部看護学科FD活動報告書2号 (P21~28)

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 薬学部

### 大項目（評価の基準）： 8. 研究活動

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 研究の質的向上に取り組んでいるか。
--------	-----------------------

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	大学・学部内での共同研究や研究評価体制の確立と他の研究機関との交流の推進を図り、国内的・国際的にも評価される研究課題の策定、さらに地域社会との連携を深め研究シーズの探索を推進する。	学部の年間の公的資金総申請数および総獲得額、学部学生からの大学院進学者数、年間論文投稿・受理数、学部内シンポジウム形式の討論会開催数、薬学部内および他学部との共同研究の推進状況

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	各教員は、学会活動などを通して研究の質的向上に取り組んでいる。次世代女性研究者支援プラットフォームにも、学部内の多くの教員が関与している。	既出3-P3 福岡大学研究者情報 既出3-P10 薬学集報 8-P1 福岡大学次世代女性研究者支援室ホームページ

## スポーツ科学部

### 大項目（評価の基準）： 8. 研究活動

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 研究の質的向上に取り組んでいるか。
評価の視点	研究活動方針の適切性、研究活動成果・実績の状況

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究活動方針の適切性に係わる組織的な取り組みを実施する。</li> <li>研究活動成果・実績について最新情報を発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究活動に係わる組織的な取り組み実績</li> <li>研究活動成果・実績の発信実績</li> </ul>

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>本学で開始される私立大学研究ブランディング事業において中核的な役割を果たした。</li> <li>学部内共同研究チームによる取り組みがなされており、学内の競争的研究資金に採択された5つの共同研究チームが研究を遂行中である。</li> <li>文部科学省の科学研究費補助金への応募件数が前年度に比べ+5件となり、前年度比+25%となった。また、採択数は前年度に比べ+2件となり、前年度比+25%となった。</li> <li>研究業績の配信実績については、福岡大学スポーツ科学研究に1年に1度の掲載をベースとしている(3-G3 51~132頁)。</li> <li>研究業績に関する最新情報は、大学ホームページの研究者情報を通じて随時配信している。</li> </ul>	8-G1 「平成28年度私立大学研究ブランディング事業計画書」 8-G2 「平成28年度研究推進部委員会(3月28日)」資料1 既出7-G2 「平成28年度研究推進部委員会(7月25日)」資料1 既出3-G3 「スポーツ科学研究第47巻1号」 既出4-1--G3 「福岡大学ホームページ」

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 人文科学研究科

### 大項目（評価の基準）： 8. 研究活動

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 研究の質的向上に取り組んでいるか。
評価の視点	研究活動方針の適切性、研究活動成果・実績の状況

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	現行の教育組織を維持するなら、教員の大学院担当比重を増やすか、補助職員(助教等)を採用する。また教員の博士学位取得を推進させる。	教員授業担当比重～大学院：学部＝6：4 程度 博士学位取得者の全教員数に対する比率40%

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	各教員が、所属する学会の専門誌、人文学部紀要、専攻毎の個人及び共同研究（領域別研究）として、成果の公表を行っている。また、平成28年度の競争的研究費獲得では、次のような科研費採択が認められた：基盤研究（A）1件、基盤研究（B）1件、研究成果公開促進費1件、基盤研究（C）9件、挑戦的萌芽研究1件、若手研究（B）1件。	8-LD1 平成28年度科研費採択者一覧

## 法学研究科

### 大項目（評価の基準）： 8. 研究活動

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 研究の質的向上に取り組んでいるか。
評価の視点	研究活動方針の適切性 研究活動成果・実績の状況

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	研究成果の積極的な公表をさらに拡大させること。	研究成果の水準を数値化することには大きな困難が伴うが、公表された論文数など一定の量的な実績を評価する。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	法学研究科担当の教員は、各自の専門領域において研究成果の公表をこころがけ、『福岡大学法学論叢』および国内外の雑誌に、論文を公表している。また、海外での国際会議や国際学会などで、研究発表をした教員もいる。大学院学生は、『福岡大学大学院論集』に論文を公表している。	8-JD-1福岡大学研究者情報（ホームページ掲載） 「研究業績」：8-JD-2 『福岡大学大学院論集』48巻第1号(平成28年7月31日)

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 経済学研究科

### 大項目（評価の基準）： 8. 研究活動

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	研究の質的向上に取り組んでいるか。
--------	-------------------

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	引き続き、研究成果の質的向上、量的拡張に向けて努めていきたい。	教員による、5年間の論文の質と量

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	教員の人事評価において、査読付き論文の発表、S C I レベルの論文に高い点数を与えるようにして、研究活動の質的向上を図っている。	8-E D 1, 通常委員会 会議資料 (1月26日、1-10項)

## 商学研究科

### 大項目（評価の基準）： 8. 研究活動

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 研究の質的向上に取り組んでいるか。
--------	-----------------------

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	商学研究科内および他研究科、他大学と共同研究をよりいっそうすすめ、研究の質的向上に取り組む。	研究成果としての共同論文、学術誌

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	他大学（海外）との共同研究を進めたり、学内外の刊行物へ投稿したり、査読を受けたり、内外の学界で報告を行ったりして、研究の質的向上を図っている。	既出 3-CD6 『福岡大学商学論叢』。

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 理学研究科

### 大項目（評価の基準）： 8. 研究活動

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 研究の質的向上に取り組んでいるか。
評価の視点	研究活動方針の適切性、研究活動成果・実績の状況

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	研究科および専攻において、研究活動方針を維持する。学外での研究成果の発表件数を維持する。	研究活動方針の明示 学外発表件数（学会発表、原著論文数）

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	「学位取得のためのガイドライン」において、理学研究科の研究活動方針が明記されている。各専攻の専攻部門のシラバスにおいて、個々の研究に関する活動方針が定められている。（既出1-SD1 293頁～、321頁～、既出4-3-SD1） 学会や論文において、学生の研究が成果として発表されている。（既出3-SD9）	既出1-SD1 平成28年度大学院便覧 既出4-3-SD1 Webシラバス 既出3-SD9 理学部・理学研究科年報2015

## 工学研究科

### 大項目（評価の基準）： 8. 研究活動

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 研究の質的向上に取り組んでいるか。
評価の視点	工学研究科全体の研究成果及び外部資金獲得額の公表

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>著書・学術論文・学会発表等の件数増加</li> <li>外部資金獲得件数および金額の増加</li> <li>学外機関との連携強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>著書・学術論文・学会発表等の件数</li> <li>外部資金獲得件数・金額</li> <li>受託・共同研究件数、委員会等委員就任件数</li> </ul>

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	著書・学術論文・学会発表等の件数増加・外部資金獲得件数および金額の増加・学外機関との連携強化（既出3-TD1）	既出3-TD1 福岡大学工学集報第97号 8-TD1 学報第468号13頁 8-TD2 学報第471号4-8頁

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 医学研究科

### 大項目（評価の基準）： 8. 研究活動

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 研究の質的向上に取り組んでいるか。
評価の視点	研究活動方針の適切性、研究活動成果・実績の状況

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	異分野間共同研究の促進	医学研究科改革小委員会等における検討

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	博士課程では、医学研究科内の異なる専攻間の交流や共同研究に関しては従来に比し大きな変化はない。個別レベルでは、附設研究所を軸とした医学研究科内の共同研究が行われている。また産学官連携コーディネータの仲介などを介して、医学、工学、理学などの異分野間の交流を深める機会が設けられ、生命科学全般における融合統合研究の推進する動きもある。(8-MD1) 修士課程では、医学研究科内の異なる専攻間での交流や共同研究は現在のところない。	8-MD1 福岡大学産学官連携センターHP【開催報告】「福岡大学新春産学官技術交流会2016」

## 薬学研究科

### 大項目（評価の基準）： 8. 研究活動

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 研究の質的向上に取り組んでいるか。
評価の視点	研究活動方針の適切性 研究活動成果・実績の状況

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	効率的で無理のない研究活動方針が策定されている。	新たな研究体制

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	薬学部6年制が施行されて学部教育が過密化し、教員の負担は増大している。加えて、大学院生の減少によるマンパワーの低下により、研究活動の進展が困難な中で、一定の研究成果を収めている。しかし、この成果は個々の教員、学生の工夫、努力、奮闘による部分が多い。	8-P1 福岡大学薬学集報(書籍およびWeb上) 8-P2 福岡大学研究者情報DB (Web) 8-P3 福岡大学薬学部研究室紹介サイト 既出4-3-P1 福岡大学 自己点検・評価報告書 (PDF版)

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## スポーツ健康科学研究科

### 大項目（評価の基準）： 8. 研究活動

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 研究の質的向上に取り組んでいるか。
評価の視点	研究活動方針の適切性, 研究活動成果・実績の状況

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	研究科全体での研究活動方針を検討する。	毎年、年度末に研究科教員全員の研究業績一覧を掲載している。この一覧をもって判断する。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	研究科全体としての組織的な研究活動方針は定められておらず、研究室単位、教員単位でのみ行われている。また、研究活動成果は毎年学部紀要に当該年度の研究業績一覧が掲載されている。この掲載に関しては今後も継続して実施していく予定である。(3-GD3 51～132頁)	既出3-GD3「スポーツ科学部研究紀要（福岡大学スポーツ科学研究）」

## 法科大学院

### 大項目（評価の基準）： 8. 研究活動

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 研究の質的向上に取り組んでいるか。
評価の視点	研究活動成果・実績の状況

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	領域別研究において、平成27年～29年度の成果を取り纏めた上で、さらに平成30年からの研究に応募して研究を継続する。	平成29年度に領域別研究を取り纏めて、その成果を公表し、さらに次の年度の研究に応募して採択されること。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	各教員は、ノルマの授業時間外において、担当科目の授業内容に関する質疑応答や司法試験対策などのための一年を通じての個別的指導にかなりの時間を割いており、各々の専門分野に関する研究に専念することのできる時間の確保は、未だ不十分な状況にあることに変わりはない。特に、在外研究制度の利用は、事実上不可能である。他方、平成27年度より「領域別研究」として認められた「法科大学院判例研究」については、平成28年2月、各教員の研究テーマおよび進捗状況に関する報告会が開催され、さらに、今年度開始時には、本研究を積極的に推進してほしい旨の要請が教授会において行われた。	

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 人文学部

### 大項目（評価の基準）： 9. 社会連携・社会貢献

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	教育研究の成果の社会への還元を継続する	社会貢献に関する具体的な取り組み数

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	教員各人は研究に基づく社会的貢献を、国、県、市の各レベルの各種審議会委員や、講演、研修会講師など多彩に展開しているものの、それをどう評価、検討していくのかのノウハウが蓄積されておらず、数の上での実態評価が難しい。適切な数値目標の指標の検討を急ぐべきである。UR 堤団地の自治会と連携し、ドイツ、フランスの文化を紹介するイベントを11月に実施した。	9-L-1 打ち合わせ資料

## 法学部

### 大項目（評価の基準）： 9. 社会連携・社会貢献

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	①教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動、②学外組織との連携協力による教育研究の推進、③地域交流・国際交流事業への積極的参加

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	地域社会・外部組織と協力し、地域社会等に研究成果を還元できるようにする。	地域社会・外部組織との連携・協力。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	福岡大学法学部授業科目として、福岡県警職員と学部教員によって平成28年度「特別講義（警察活動の実際と法理論）（2単位）を開講した(9-J1)。	9-J1 シラバス平成28年度（2016年）法学部126頁

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 経済学部

### 大項目（評価の基準）： 9. 社会連携・社会貢献

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	①教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動 ②学外組織との連携協力による教育研究の推進

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	現在の社会連携・社会貢献活動を引き続き維持していく。	本学公式ウェブサイト 都市空間情報行動研究所 (FQBIC) に掲載される実績。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	福岡大学都市空間情報行動研究所の活動、福岡大学産学連携協議会と連携した授業等により、引き続き社会連携・社会貢献活動が行われている (4-2-E3 179-182頁)。	既出 4-2-E3 平成28年度経済学部シラバス フィールド研究 既出 4-1-E1 福岡大学公式ウェブサイト 福岡大学都市空間情報行動研究所 既出 4-1-E1 福岡大学公式ウェブサイト 産学連携協議会

## 商学部

### 大項目（評価の基準）： 9. 社会連携・社会貢献

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	①教育研究の成果を基にした社会貢献活動、②学外組織との連携協力による教育研究の推進、③地域との交流の推進

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	教育研究成果を社会に還元する活動の継続	高校生向け講義数、学外との連携プログラム数、創業交流塾参加者数

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	<p>①大学の講義内容に対する高校生の関心を高めるため、入学センター経由で模擬講義、高大連携事業による講義を行っている。商学部の平成27年度における模擬講義は28回、高大連携科目は5科目であった。</p> <p>また、研究成果の市民への還元活動として、商学部教員は、エクステンションセンターが実施する「福岡大学を知る」への出講、政府や地方公共団体の審査会等の委員、各種団体での講演、執筆活動等において貢献している。</p> <p>②全学の組織・予算を利用して学外組織との連携による教育に取り組んでいる。平成28年度には、「暫定的教育予算」を利用した企画として、大手食品メーカーが「マーケティング入門」で講義を実施し、その後に組織された学生のプロジェクトメンバーが販促案を企画した。このメーカーが試験的にこの案を実施したところ、有効性が確かめられ、正式に全国で採用される予定となった。また、「特別講義E」の受講生が、県内の地方自治体の街づくり組織と連携した「まちを元気にしようプロジェクト」に取り組み、企画を町に提案して、その内容を夏期インターンシップとして実践した。</p> <p>③商学部は独自に産学連携事業を行っている。2015年12月に天神ロフトと産学連携協定を締結し、2016年度には、商学部のゼミを中心とした学生22人が、商品特性や購買層の分析に基づいて、売場や商品企画、商品PRの企画をロフトに提案し、学生が特設売場でその企画を実践した。このほか株式会社共立メンテナンスと産学連携協定を締結し、今後、連携講義などを実施する予定である。</p> <p>④その他、個別のゼミナールや教員が中心となった活動として、福岡県酒造組合主催のイベントの企画・運営や、学内の書店と連携して、学生が書籍のプロモーションを企画し実践する「ブックフェア」などを実施した。なお、「ブックフェア」終了後は、この企画で紹介した書籍のプロモーションを本学中央図書館で行った。さらに、オープンキャンパスで高校生にこの企画の体験プログラムを提供し、大きな反響を得た。</p> <p>このほか、「創業体験プログラム」も、外部の企業経営者などとの連携を深めながら継続して実施している。なお、以前実施された創業交流塾は、今年度は実施されていないが、この運営の中心となっていた教員や、ほかの多くの教員が、これと同等の学外組織との連携協力や地域との交流を活発に推進している。</p>	<p>9-C1 入学センター・教務課の内部資料、エクステンションセンターHP</p> <p>9-C2 教授会資料 (平成28年9月14日)</p> <p>9-C3 福岡大学HP <a href="http://www.fukuoka-u.ac.jp/press/16/07/01143737.html">http://www.fukuoka-u.ac.jp/press/16/07/01143737.html</a></p> <p>9-C4 「ことば那珂川」HP <a href="http://cototoba.com/news/2016n-akagawa-fukudai/">http://cototoba.com/news/2016n-akagawa-fukudai/</a> <a href="http://cototoba.com/news/bookafe-repo/">http://cototoba.com/news/bookafe-repo/</a></p> <p>9-C5 『学部通信2015-2016』</p> <p>9-C6 毎日新聞(平成27年12月12日付)</p> <p>9-C7 『学園通信No. 54』</p> <p>9-C8 福岡大学商学部HP <a href="http://www.comm.fukuoka-u.ac.jp/topics/topics_111_1.html">http://www.comm.fukuoka-u.ac.jp/topics/topics_111_1.html</a> <a href="http://www.comm.fukuoka-u.ac.jp/topics/topics_2016527.html">http://www.comm.fukuoka-u.ac.jp/topics/topics_2016527.html</a></p> <p>既出9-C3福岡大学HP <a href="http://www.fukuoka-u.ac.jp/news/16/07/01120001.html">http://www.fukuoka-u.ac.jp/news/16/07/01120001.html</a></p> <p>読売新聞HP <a href="http://www.yomiuri.co.jp/kyushu/ad/daigaku2016/12fukuoka.html">http://www.yomiuri.co.jp/kyushu/ad/daigaku2016/12fukuoka.html</a></p> <p>福岡大学HP (オープンキャンパス情報) <a href="http://www.fukuokau.ac.jp/news/16/07/01120001.html">http://www.fukuokau.ac.jp/news/16/07/01120001.html</a> <a href="https://ja-jp.facebook.com/fuentsrepreneurship">https://ja-jp.facebook.com/fuentsrepreneurship</a></p>

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 理学部

### 大項目（評価の基準）： 9. 社会連携・社会貢献

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	教育研究の成果を元にした社会へのサービス活動、学外組織との連携協力による教育研究の推進、地域交流・国際交流事業への積極的参加

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	社会貢献活動、教育研究活動、国際交流活動の充実	活動実績

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	上海交通大学での講義を受ける化学科の材料科学国際演習や蔚山大学との共同での研究発表会やグループ討論などを行う化学国際演習を実施している。(既出4-2-S1) 一般向けの論文および著書、行政報告書が5件発行されている。高校生を対象とした模擬講義の回数は21件である。また一般対象の集会での発表回数は4件である。一般対象のイベント活動(講師として)の回数は11件である。その他に福岡大学市民カレッジの公開講座を5件開催している。(既出3-S3、9-S1)。また、福岡大学地域ネット推進センター所管「地域の教育支援活動」のイベント活動が物理科学科を中心に6回開催されている。	既出4-2-S1 平成28年度シラバス(理学部) 既出3-S3 理学部・理学研究科年報2015 9-S1 地域ネット推進センターホームページ

## 工学部

### 大項目（評価の基準）： 9. 社会連携・社会貢献

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動、学外組織との連携協力による教育研究の推進、地域交流・国際交流事業への積極的参加

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	引き続き教育研究の成果を社会に還元していく。	地域・社会の人々の満足度

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	工学部では、社会連携・社会貢献活動として、水環境・生態系保全活動として室見川でのシロウオ産卵床造成活動、地域の防災土育成事業として、防災土養成研修プログラムおよび地域防災と災害対応や地域と連携した水害避難ガイドブック作成を実施している。また、都市景観まちづくり事業としては、安全・安心なまちのデザインを実施してきている。	福岡大学地域ネット推進センター「地域ほっとブック」-まちづくり最前線!福岡大学-

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 医学部医学科

### 大項目（評価の基準）： 9. 社会連携・社会貢献

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	医学部の教育研究の成果を適切に社会に還元している。

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	医師の派遣などを積極的な支援ができる環境を整備する。看護師の継続教育を視野に入れたプログラムの構築。	医師の派遣、看護師の継続教育を視野に入れたプログラムの立案者の確保、および、現在の自治体からの寄付研究講座の継続である。看護師の継続教育を視野に入れたプログラムが構築されていること。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	医学部は教育研究の成果を、公開講座・シンポジウムの開催、社会人教育、生涯学習等で社会に還元している。医療過疎地域に対する医師派遣は、典型的な医師育成の教育成果と考えることができる。エクステンションセンターを利用した様々な試みは、正規の学籍を有しない社会一般の人々に対しての生涯学習に貢献している。医学部は福岡県との提携による特別寄付講座「地域・救急医療管理学講座」を開設し、医療過疎地域への医師の派遣、また、病院を中心として多くの市民公開講座を大学メディカルホールで絶えず開催している。医学部カンファレンスは社会人医師が自由に参加できる形態を取っている。企業・民間とのコラボにより寄付研究連携の講座を13講座有している。	医学部教授会資料, 医学部ホームページ, 医学部教授会資料、医学教育検討委員会資料等。

## 医学部看護学科

### 大項目（評価の基準）： 9. 社会連携・社会貢献

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	医学部の教育研究の成果を適切に社会に還元している。

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)		
中項目(2)	医師の派遣などを積極的な支援ができる環境を整備する。看護師の継続教育を視野に入れたプログラムの構築。現行のCSD研修（継続教育）を、ニーズのある看護師がより活用できるように、HPなどで広報していく。年1回、一般市民に向けての健康に関する市民講座を開催（継続）していく。	医師の派遣、看護師の継続教育を視野に入れたプログラムの立案者の確保および現在の自治体からの寄付研究講座の継続である。看護師の継続教育を視野に入れたプログラムが構築されている。CSD研修参加者の継続利用を定期的にアンケート調査をして、満足度とニーズを評価する。継続して定期的に健康に関する市民講座が開催されている。西部ガスカスタマーサービス(株)の検針職によるコミュニケーションスキル育成プログラムへの評価を指標とする。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	社会ニーズに応えられる高度実践看護師の育成プログラムはワーキンググループを中心に大学院教育において28年度申請した。ジェネラリストとしての看護師の輩出は27年度看護師国家試験100%保健師国家試験合格率95%であり、順調に社会に送り出すことが出来ている。また、学科のメンタルサポート研究会という学生のサークルを通して高齢者ケアサポート事業を行っている。平成21年にスタートし、大学が所在する福岡市城南区七隈校区・金山校区の独居高齢者世帯での孤独死防止をするために訪問活動を行っている。年2回七隈地区で高齢者サロン活動で健康教室も行っている。現在1年生、2年生の学生9人が毎週1回コミュニケーションの練習しながら、2週間に1回、高齢者宅4名に訪問を継続している。平成27年から徐々にではあるが、訪問高齢者が増加している。さらに福岡大学地域推進センターと福岡市URとの提携によって、福岡市堤団地や星の原団地の高齢者世帯に対するケアサポート事業として健康相談など教育研究の成果の還元が始まっている。	

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 薬学部

### 大項目（評価の基準）： 9. 社会連携・社会貢献

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動、地域交流・国際交流事業への積極的参加

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	専門性を活かした社会活動を行い、教育研究成果を社会へ還元する。	卒後教育講座資料、エクステンションセンター資料、兼職状況資料

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	薬学部主催の卒後教育を年2回開催している。エクステンションセンター主催で行っている大学開放推進事業の一環である「福岡大学を知るシリーズ」に薬学部教員を派遣している。所属学会の委員や代議員、教育研究の成果を基にした社会活動を各教員が行っている。県や市の薬剤師会、市医師会と交流し、その活動をサポートしている。	9-P1 卒後教育講座資料 9-P2 エクステンションセンター資料 9-P3 兼職状況資料 9-P4 No Drug資料

## スポーツ科学部

### 大項目（評価の基準）： 9. 社会連携・社会貢献

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	1. 教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	1. 各種講座の安定的な開講と受講者数の増加 2. 地域貢献に対する積極的な参加と取り組み 3. 高大連携事業の具体的な取り組み 4. 地域貢献による学部の評価システムの構築	1. 講座数を15講座以上継続と1講座につき受講者数30～40名を安定確保。 2. 地域ネット推進センター事業や福岡市との連携協定で実施する授業支援および地域事業ボランティアなど合わせて15件以上を継続。 3. 関連高等学校（大濠高等学校・若葉高等学校）を対象とした講座を2回以上の実施。協定校（早良高等学校）を対象とした講座を2回以上の実施。同校に2～4人程度の母校外教育実習生の受け入れの協力体制を構築する。 4. 地域、連携校による貢献度のアンケート評価

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	1. 各種講座の安定的な開講と受講者数の増加 平成27年度、エクステンションセンター事業である福岡大学市民カレッジの参画で開講した講座数は13講座、受講者数が625人であったのに対し、平成28年度の講座数は12講座、受講者数は584人と講座数で1講座、全体の受講者数で41人が減少した。しかし、閉講した講座の担当教員は他の講座も開講しており、現存の講座を継続していくためには負担の軽減も必要であることから講座数の減少は致し方ないものと考えられる(①②)。 2. 地域貢献に対する積極的な参加と取り組み 平成28年度、福岡市との連携協定に基づく地域貢献活動では、舞鶴小・中学校を拠点に小学校教員を対象とした複合的な教育支援プログラムで7回の授業支援とアイランドシティにおける健康まちづくりでスロージョギングを実施した(③④)。また、授業支援においては、前述した活動以外にも依頼があることから、対応策として学生アスリート派遣委員会を本学部設置し、学部独自で積極的に活動を実施していく準備体制を整えた(⑤)。この他では、那珂川町と本学部が連携し、平成23年～25年度にかけて高齢者を対象として実施した運動指導の成果を還元するために、平成28年11月14日(月)那珂川町で講演会「きて見て、体感!!今日からはじめるニコニコペース運動」を開催した(⑥)。 3. 高大連携事業の具体的な取り組み 平成28年度、高大連携事業については附属若葉高等学校でゴルフ実習(3月予定)ならびに出張・模擬講義一回と同校の体育祭を第二記念会堂を利用して実施した(⑦⑧)。また、附属大濠高等学校とは本学において模擬講義2回を実施した(⑨)。協定校である早良高等学校とは、同校からの2016年度連携事業に関しての要請を受け、本学で学内見学と講義1回を実施し(⑩)。 なお、平成27年度に早良高等学校から母校外実習生受け入れの承諾が得られ、協力体制の構築はできているが、平成28年度の対象者はいなかった。 4. 地域貢献による学部の評価システムの構築 地域、連携校による貢献度のアンケート評価はエクステンションセンターのキッズ・プログラムしか実施できていない状況である(⑪)。しかし、本学部ではアンケート評価以外にも評価システムの構築における参考資料として平成27年度の年間活動から年報を作成しており、その中で実施してきた地域貢献活動を報告している(1-G3 14、27～30頁)。また、来年度から本学では地域貢献活動の成果を検証する内容が含まれた私立大学研究ブランディング事業が開始される。この事業には、本学部の地域貢献活動の多くが対象となっていることから、地域貢献による学部の評価システムの構築を進展させる材料になるものと考えられる(⑫)。	9-G1「平成27年度エクステンション事業『福岡大学市民カレッジ』講座実績報告」① 9-G2「平成28年度エクステンション事業分類別一覧」② 9-G3「第3回福岡大学と福岡市との連携協定に基づく連絡会議」③ 9-G4「アイランドシティ型認知症介護予防プログラム平成28年度結果報告」④ 9-G5「平成28年度教授会議事録(9月30日)」資料5『学生アスリート派遣委員会の設置について』⑤ 9-G6「ウェブブック-広報なかわ平成28年10月号」⑥ 9-G7「スポーツ学部推進計画 FUSS Active Planの継続」⑦ 9-G8「福岡大学附属若葉高等学校体育科との連携について」⑧ 9-G9「附属大濠高等学校模擬講義について(2年生総合的な学習『福大講座』)」⑨ 9-G10「福岡県立早良高等学校からの2016年度連携事業に関しての要望」⑩ 9-G11「平成27年度福岡大学市民カレッジキッズ・プログラムアンケート結果」⑪ 既出1-G3「平成27年度福岡大学スポーツ科学部年報(創刊号)」 既出8-G1「平成28年度私立大学研究ブランディング事業計画書」⑫

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 人文科学研究科

### 大項目（評価の基準）： 9. 社会連携・社会貢献

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動、学外組織との連携協力による教育研究の推進、地域交流・国際交流事業への積極的参加

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	各専攻の教育・研究活動、社会的貢献等に関する情報発信の具体化、促進を図る。	研究科・各専攻のHPに「社会的活動」（仮称）の項目を設定

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	史学専攻では、福岡市と地域連携事業を行い、地域住民と協力して調査を行ったり、各自治体の市町村史の編纂（『新修福岡市史』）の資料調査等に取り組んだりしている。教育・臨床心理専攻では、実習施設「臨床心理センター」や付設「学校適応支援教室ゆとりあ」において、教員及び学生による一般市民の心のケアやカウンセリング、不登校児童生徒への支援活動を展開している。	9-LD1 福岡大学・福岡市地域連携事業2016報告会 9-LD2 福岡市史資料調査一覧並びに『博多湾岸<金印ロード>資源活用プロジェクト』 9-LD3福岡大学臨床心理センター及び付設学校適応支援教室「ゆとりあ」利用案内（教育・臨床心理専攻ホームページ）

## 法学研究科

### 大項目（評価の基準）： 9. 社会連携・社会貢献

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	教育研究の成果をもとにした社会へのサービス活動。学外組織との連携協力による教育研究の推進。地域交流・国際交流事業への積極参加。

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	本研究科として可能な社会貢献・社会連携の仕組みを作り、それを実施していく。	本研究科による社会貢献・社会連携制度の設置

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	法学研究科担当の教員の幾人かは、学外の地方公共団体、協議会、審議会などにあつて、各種委員として活躍し、その研究成果を、社会に還元している。	9-JD-1福岡大学研究者情報（ホームページ掲載）「社会活動」

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 経済学研究科

### 大項目（評価の基準）： 9. 社会連携・社会貢献

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動、学外組織との連携協力による教育研究の推進、地域交流・国際交流事業への積極的参加

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	研究科として組織的に社会連携活動を行っていくよう、制度改善を検討していく。	通常委員会議事録

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	研究科の社会連携活動は、産業組織論、都市システム解析、社会工学特講などの講座を中心に行われている。	既出1-E D 1, 福岡大学大学院便覧(85項)、既出4-3-E D 2, 平成28年度シラバス

## 商学研究科

### 大項目（評価の基準）： 9. 社会連携・社会貢献

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	教育研究の成果をもとにした社会への貢献、学外組織との連携協力による教育研究の推進、地域交流・国際交流事業への

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	商学研究科としていかなる組織的な社会貢献・連携が可能か検討していくこと。	商学研究科における社会貢献・連携制度の構築

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	商学研究科では、各教員が教育研究の成果をもとに各種社会貢献をしている。また、学外組織(海外)との連携協力による教育研究の推進、国際交流事業への取り組みを検討している。ただし、現在のところ各教員の努力に負っている。	

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 理学研究科

### 大項目（評価の基準）： 9. 社会連携・社会貢献

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	学外組織との連携協力による教育研究の推進、地域交流・国際交流事業への積極的参加

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	地域交流事業への理学研究科教員の参加	地域交流事業への参加実績

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	一般向けの論文および著書、行政報告書が5件発行されている。高校生を対象とした模擬講義の回数は21件である。また一般対象の集会での発表回数は4件である。一般対象のイベント活動（講師として）の回数は11件である。その他に福岡大学市民カレッジの公開講座を5件開催している。（既出3-SD9、9-SD1）。また、福岡大学地域ネット推進センター所管「地域の教育支援活動」のイベント活動が物理科学科・応用物理学専攻を中心に6回開催されている。	既出3-SD9 理学部・理学研究科年報2015 9-SD1 地域ネット推進センターホームページ

## 工学研究科

### 大項目（評価の基準）： 9. 社会連携・社会貢献

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動、学外組織との連携協力による教育研究の推進、地域交流・国際交流事業への積極的参加。研究推進部による研究シーズ公開。広報部によるプレスリリースなど。

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	地域への教育支援、地域交流事業への参画回数を増やす。成果還元の研究件数を増やす。	教育支援件数、共同研究件数、交流事業回数で評価する。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	資源循環・環境工学専攻では北九州市と共催で、北九市民を対象に「福岡大学エコスクール」環境講座を開催し、座学のみならず研究施設や研究成果を公開して、様々な環境の取り組み現場の見学を行っている。 （9-TD1） また、自治体へ政策提言が行える人材を育成することを目的とした「グループ530勉強会」を開催し、廃棄物関連研究者、技術者及び管理者のレベルアップを図る取り組みも行っている。	9-TD1 環境セミナー2016 福岡大学エコスクール案内

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## 医学研究科

### 大項目（評価の基準）： 9. 社会連携・社会貢献

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	学外組織との連携協力による教育研究の推進、地域交流・国際交流事業への積極参加

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	研究成果の社会還元方法の改善	研究成果の一般公開、アウトリーチ活動の促進

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	<p>博士課程では、地域交流としては、福岡四大学共同研究プロジェクト（先進的医療イノベーション人材養成事業）「未来医療研究人材養成拠点形成事業」（9-MD1、既出1-MD1）、七隈沿線三大学連携事業が進行中である。後者に関しては、大学院共通科目講義の相互開放、学位審査員の相互派遣、共通開講セミナー「食と栄養と健康」が継続して行われている。共通開講セミナーは一般公開セミナーであり、これにアウトリーチ活動の一環として、福岡大学医学研究科の若手教員を中心とし講師として派遣している。（9-MD2）国際交流としては、韓国啓明大学大学院との国際交流が平成28年度よりスタートした。（既出1-MD2）HP等を介した研究成果の一般への公開方法については、課題として検討中である。</p> <p>修士課程では、海外交流では平成26年度より毎年米国ウオッシュバン大学大学院担当教員が来福し、講演会や講義などを通じて交流を行っている。来年度学生が米国ウオッシュバン大学に短期留学し、国際交流を検討中である。研究成果の一般への公開方法については、学会発表、論文発表は行っているが、市民公開講座等は検討中である。（既出 1-MD4）</p>	<p>9-MD1 文部科学省 平成28年度研究拠点形成費等補助金「先進的医療イノベーション人材養成事業（未来医療研究人材養成拠点形成事業）」の共同事業契約書の締結及び事業実施について</p> <p>既出 1-MD1 平成28年度大学院医学研究科博士課程シラバス</p> <p>9-MD2 第26～27回三大学連絡協議会（記録）</p> <p>既出 1-MD2 THE HANDBOOK (KEIMYUNG-FUKUOKA UNIVERSITY BSL EXCHANGE PROGRAM)</p> <p>既出 1-MD4 看護学科国際交流活動報告書2015</p>

## 薬学研究科

### 大項目（評価の基準）： 9. 社会連携・社会貢献

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動 学外組織との連携協力による教育研究の推進 地域交流・国際交流事業への積極的参加

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)		
中項目(2)	教育研究の成果が、学外組織との連携事業の推進や医療現場での技術革新等に寄与している。	学外組織との連携事業への参画

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	学会、研修会等への参加、研究論文の投稿、特許出願その他を通じて、積極的に研究成果を公表して社会に還元している。	既出8-P1 福岡大学薬学集報（書籍およびWeb上） 既出8-P2 福岡大学研究者情報DB（Web）

# 平成28年度 自己点検・評価シート

## スポーツ健康科学研究科

### 大項目（評価の基準）： 9. 社会連携・社会貢献

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動，学外組織との連携協力による教育研究の推進，地域交流・国際交流事業への積極的参加

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	現在も適切に行われており，現状を維持するように努める。	連携協定を結んだ自治体数

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)		該当なし
中項目(2)	地域住民を対象としたメタボリックシンドローム改善教室，福岡市および福岡県那珂川町との包括協定による認知症予防事業、福岡県主催の健康展に，毎年，健康・体力測定コーナーを設けるなど地方自治体と連携した社会貢献を行っている。このような活動を今後も継続していく予定である。	9 - GD1「広報なかがわ平成28年10月号」

## 法科大学院

### 大項目（評価の基準）： 9. 社会連携・社会貢献

#### I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動

#### II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）(Plan: 計画)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	福岡リーガルクリニック法律事務所（LCC）および本法科大学院出身の弁護士との連携を継続・強化する。	LCCが実施している無料法律相談会および公民館無料相談会の実績（開催地域、回数など）により判断する。

#### III. 到達目標の進捗状況(Do: 実行)

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	福岡リーガルクリニック法律事務所（LCC）所属の本法科大学院出身の弁護士により、①地域住民を対象に本事務所において毎週水曜日午後13：00～18：00に、また、②福岡市城南区および南区の各校区自治協議会が主催して各公民館において、各々「無料法律相談会」を実施しており、地域社会に根ざした法的サービスを提供することにより、法科大学院の教育研究の成果を地域社会に適切に還元している。	9-法科1「福岡リーガルクリニック法律事務所」ホームページ